# 清陵同窓会報

第14号

# 校舎全面改築成る

## 記念事業も順調

校舎改築の第二期工事が終り、いよいよ全面的に新校舎で授業が出来るようになった。記念事業も順調に進み、三沢文庫、清陵会館も完成、周辺整備も予定通り進み、完成を間近に控えている。その原動力となる募金は一応締切った訳であるが、企業関係百五十社、同窓生個人七千五百人のご賛同を頂き、総額二億円を突破したことは、誠に喜ばしい限りである。教育の重要性をご認識頂き、ご厚情を頂いた多数の企業に対し心より御礼申し上げる次第であります。又同窓生の皆様におかれても現在連絡のとれる人は一万五千人余でありますが、その五〇％に当る七千五百人の方々のご賛同を得たことは、何物にもかえ難い成果であります。同窓生諸兄の母校を愛する情熱、又全面的ご協力に対し誠に有り難く存ずるとともに心強いものを感ずる次第であります。残すは小体育館とグランド造成、その他付帯事業となり、六十四年秋頃までにはすべて完成される状態になって参りました。従っていよいよ待望の記念事業完成祝賀総会の準備にとりかかることになりました。一応の予定としては明六十四年十一月初旬を予定し、記念総会運営委員会を組織し活動を開始致しました。創立八十周年大会には二千人近くの同窓生が参集したが、今回は校舎全面改築と言う大事業の完成祝賀会でありますので、前回以上の盛大な祝賀総会と致したく存じて居ります。会員の皆様には今からご予定を頂き全員で喜びを共にしたいものと考えて居ります。

会員の皆様の全面的ご協力により同窓会活動は逐年活発化し恐らく県下に於てはトップレベルのものと思います。世の中が急速に変化し、忙がしさの余りともすると心の安定を失いがちのこの頃ですが、縁あって同じ校舎に学んだ同窓生の交流を通じ心の絆としたいものであります。いよいよ完成祝賀総会の準備に入って参ります。全会員のご協力をお願い申し上げますと共に、皆様方のご健勝とご発展を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶と致します。

## 完成祝賀会（64年11月）にご協力を

会長　山田　六一

生徒昇降口と北校舎

**同窓会員名簿**

**（61年5月発行）**

92年間、約2万名の会員・職員を収録。残部僅少。

**頒布価3,000円**（含送料）

希望者は下記口座へ前金で。

郵便振込
長野 1—20200

八十二銀行
諏訪支店
（普）303088

諏訪信用金庫
上諏訪支店
（普）957603

諏訪清陵高校名簿委員会
代表　関　蓼彦

### 昭和63年度 定期総会案内

**日　時**　六月十九日㈰午後一時

**場　所**　諏訪市文化センター

**議　事**　①昭和62年度会務・決算報告　②校舎改築記念事業中間報告・記念祝賀会実施計画　③役員改選　④その他

**○記念講演**

セイコーエプソン㈱
専務取締役　土橋光廣氏（五十二回生）

法政大学教授　五味健吉氏（五十二回生）

**○懇親会**　午後四時（会費三千円）当日受付で

## 挨拶

# 新しい校舎に古き良き伝統を

学校長 中山 茂

今年二月「清陵会館」が竣工、同窓会から正式に御寄贈賜りました。鉄筋コンクリート二階建ての頑丈な建物で、在校生たちが集会場、合宿所として使わせて頂いております。誠に有難く、学校の一同を代表し心からお礼申し上げます。

在校生たちも同窓先輩の御恩を生涯に亘って忘れないであろうと信じます。

校舎改築事業は三月に第二期工事が完了、これまでに教室棟三棟・大体育館・音楽室棟・図書館棟・三澤文庫・テニスコートなどが完成、四月から全ての授業が新校舎で行われております。今後、小体育館・部室棟・自転車置場などの建設が計画されており、また旧校舎取り壊し跡地にグランド造成の予定で、昭和64年秋には全工事落成の見通しであります。

ここに至るまで同窓生各位が寄せられました御援助に対し、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

在校生たちは新校舎での本校の新しい歴史を築き始めました。校舎は新しくなりましたが、本校の古い良い伝統は継承されなければならないと思います。

昔から言われて来たことですが十年、二十年後に立派な仕事をする人材が育つためには、小手先の勉強や間に合わせの勉強ではなく、本物の勉強が大切だと思います。あくまで厳密に論理的に読むとか、徹底的に広く深く考え抜くとか、そういう学問的な勉強が是非必要であると思います。

清陵にはそういう勉強の伝統があり「雖千万人吾往矣」の気概に支えられて生き続けて来たと思います。今後もこの伝統を継承、発展させなければなりません。

たとえ一、二度大学入試に失敗したとしても、ほんものの勉強をして来た人は必ず将来は伸びると思います。いたずらに年々の進学率に一喜一憂、右顧左眄したりするのでなく、生徒も職員もあくまで清陵本来の伝統を堅持し、ほんものの勉強を貫いてゆきたいと考えます。そして、そこからこそ真に力ある若者が育ってくれることを信じます。

この三月、本校で立派な仕事をされた十人の職員が転退職、四月から新たに十三人の優秀な人々を迎え、共々に新年度を踏み出しました。どうぞ本年度も御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

右手前 大体育館・音楽室、向こうに三沢文庫、天文ドームのあるのが東校舎、それに続いて南・北校舎。その向こうに 旧校舎が見える。


郷里に錦を飾る ふるさとに集う

全室諏訪湖が眺望できる12階建和風旅館

クラス会・同窓会
励ます会・壮行会
創立記念パーティ
出版記念パーティ
ゴルフコンペ
各種謝恩パーティなど
ご利用いただけます

政府登録国際観光旅館
浜の湯
〒392 諏訪市湖岸通り3-3-10 ☎0266(58)8000代
取締役社長 山崎壮一(51回)
取締役 山崎澪子(56回)

# 昭和62年度 会務報告

**4・4** 入学式、入学者359名（内女子111名）石井副会長祝辞。

**4・18** 岡谷支部総会（PM6時・信濃屋）山田会長・中山学校長ほか出席。

**5・9** 上伊那支部総会（PM6時・於下辰野公民館）井上総務・中山学校長ほか出席（赤羽貞雄支部長退任、新支部長に長田源康氏〈46回〉就任）

**5・21** 会計監査（PM1時30分・於学校）宮坂・林両監査出席。

**5・23**○校舎改築対策委員会（AM10時・於学校）山田会長ほか出席。

○（財）諏訪清陵会理事会（昭和61年度事業報告・決算、昭和62年度事業計画・予算）AM11時・於学校、山田理事長ほか出席。

○常任幹事会（昭和62年度定期総会提出議案策定他）（PM1時30分・於学校）山田会長ほか出席。

○幹事・校舎改築記念事業実行委員会正副委員長合同会議（昭和62年度定期総会提出議案審議他、PM3時30分・於学校。）

○新旧校長・事務長歓送迎会（小田切光威校長・北原邦英事務長退任、中山茂校長・丸山和彦事務長着任、PM6時・於橋場会館。）

**6・2** 会報13号（28頁）完成（一四、五〇〇部）会員へ発送。

**6・5** 定期総会当番幹事事前打合わせ会（PM7時30分・於浜の湯）石井副会長ほか出席。

**6・10** 下諏訪支部総会（PM7時・於プリンスホテル）石井副会長、中山学校長ほか出席。

**6・21**○本部役員会（定期総会進行打合わせ会）AM11時・於諏訪市文化センター）石井副会長ほか出席。

○昭和62年度同窓会定期総会（PM1時・於諏訪市文化センター）記念講演「城と城下町」名古屋工業大学教授 内藤昌先生（51回生）「わが社の経営戦略」すかいらーく（株）会長 横川端先生（51回生）出席者一四〇〇名。○懇親会 PM4時・於諏訪市文化センター、当番幹事51回ほか。

**6・27** 小田切光威前学校長文部大臣教育功労者表彰受賞祝賀会（PM3時・於成田屋）石井副会長ほか出席。

**7・1**○清陵会館工事入札 PM10時・於学校（諏訪土木建築（株）・落札）石井副会長・藤森施設委員長ほか出席。

○清陵会館建築工事安全祈願祭・地鎮祭（AM11時40分・於建設予定地）石井副会長・藤森施設委員長ほか出席。

**7・10** 事務局会議（定期総会反省、同窓会運営ほか）PM5時・於仙岳。

**8・4** 寄付条例制定市町村へ寄付終了報告提出。

**8・21** 会報13号編集委員会反省会 PM6時・於仙岳、石井副会長ほか出席。

**9・25** 事務局会議（同窓会運営・記念総会実施計画原原案策定）PM5時・於仙岳。

**10・13** 施設委員会（施設委員会中間報告と今後の進め方）PM1時30分・於学校。

**10・13** 昭和63年度定期総会打合わせ会 PM6時30分・於セイコークラブ、当番幹事52・55回生、サブ幹事56、62、72回生、前幹事51回生、石井副会長ほか出席。

**10・25**（財）諏訪清陵会小講演会「国際交流の現況と課題」東京都知事秘書高木祥勝氏（60回生）

**11・17**○東京支部総会 PM6時・於日本青年館内東洋軒、山田会長・中山学校長ほか出席（増沢譲太郎支部長退任、新支部長小平

EPSON

地域とともに歩む
セイコーエプソン株式会社
長野県諏訪市大和三丁目3番5号 TEL52-3131（代）

祐氏（42回）就任）
○松本支部総会　ＰＭ６時・於信州会館、今村教頭ほか出席。
11・21　茅野支部総会　ＰＭ３時・於サンパレス、小菅募金委員長、中山学校長ほか出席。
12・4　事務局会議（同窓会運営、記念総会実施計画原案策定）ＰＭ４時・於学校。
12・16　名簿委員会反省会、ＰＭ６時・於古畑。
12・24　清陵会館竣工・引き取り検査並びに新三沢先生記念文庫見学会　ＡＭ11時・石井副会長、藤森施設委員長、金子三沢文庫委員長ほか出席。
63・1・18　事務局会議（２月20日役員会提出議案策定）ＰＭ３時・於学校。
1・23　同窓会事務所引越（清陵高校内応接室より清陵会館内同窓会事務室（専用）へ
1・25　新諏訪清陵高校同窓会事務室で業務開始。
2・6　○記念事業委員長事務局合同会議（２月20日役員会提出議案原案策定）ＰＭ１時30分・於清陵会館。
○東海支部総会　ＰＭ５時・於王山会館（名古屋）
2・20　常任幹事会、幹事・記念事業正副委員長合同会議（同窓会・記念事業中間報告・記念祝賀総会実施計画概要案　昭和63年度定期総会案審議）ＰＭ１時・於清陵会館。懇親会ＰＭ４時30分・於清陵会館。
3・8　卒業式　卒業生314名（内女子108名）山田会長祝辞。
3・15　校舎改築記念事業完成祝賀記念総会運営委員会打合わせ会ＰＭ６時・於仙岳、小菅重男運営委員ほか出席。

（事務局　木下　芳英）

## 昭和62年度　同窓会決算書
## 昭和63年度　同窓会予算書

### 収入の部

| 科　目 | 62年度決算額 | 63年度予算額 |
|---|---|---|
| 入会金 | 1,077,000 | 1,077,000 |
| 会費 | 3,590,000 | 3,590,000 (1) |
| 流動資産収入 | 1,939,497 | 1,550,000 |
| 繰越金 | 1,571,272 | 662,168 |
| 雑収入 | 306,663 | 1,175,118 (2) |
| 合計 | 8,484,432 | 8,054,286 |

### 支出の部

| 科　目 | 62年度決算額 | 63年度予算額 |
|---|---|---|
| 事務費 | 20,939 | 30,000 |
| 会議費 | 255,090 | 250,000 |
| 総会費 | 401,546 | 400,000 |
| 旅費 | 82,330 | 250,000 |
| 人件費 | 882,000 | 882,000 |
| 需要費 | 244,001 | 150,000 |
| 役務費 | 276,508 | 350,000 |
| 慶弔費 | 220,000 | 200,000 |
| 寄付金 | 500,000 | 500,000 (3) |
| 記念品費 | 200,000 | 200,000 |
| 繰出金 | 2,200,000 | 2,200,000 (4) |
| 基金繰入 | 2,500,000 | 2,500,000 (5) |
| 雑費 | 39,850 | 30,000 |
| 予備費 | 0 | 112,286 |
| 合計 | 7,822,264 | 8,054,286 |

備考　1．終身会費 10,000×359人〈昭和62年度入学生より〉
2．名簿会計、記念品会計より
3．(財)清陵会へ
4．校舎改築対策委員会、会報特別会計へ
5．同窓会基金、(財)清陵会へ

**昭和62年度**
**同窓会報特別会計決算報告**

収入額　1,970,979円
〈繰入金・広告収入等〉
支出額　1,881,092円
〈会報14,500部印刷費・郵送料等〉
差引残額　89,887円
〈次年度へ繰越〉

世界を沸かせた凄いガソリン　日本で新登場
昭和シェル石油特約店
株式会社　細川商店
諏訪市諏訪二丁目10番4号
☎ 本店（0266）52-3737（代）
代表取締役　細川昭八（51回）
専務取締役　矢島千晴（41回）

# 昭和62年度 定期総会の記

北校舎と中庭

昭和62年度定期総会は、6月21日、諏訪市文化センターに、あいにくの悪天候にもかかわらず約140名が参加、盛大に開催。

今回は51回生が当番幹事で準備運営に当り、太田信男（51回）氏の司会進行で物故会員に黙禱の後、石井睦蔵副会長（37回）挨拶・中山茂学校長祝辞に続いて大和武美下諏訪支部長（46回）を議長に議事に入った。

第一号議案（昭和61年度会務・決算・会報特別会計・記念事業会計・校舎改築記念事業寄付金収支現計等の報告）を原案通り承認。第二号議案（校舎改築記念事業中間報告）、第三号議案（昭和62年度事業計画・収支予算報告）をいずれも原案承認。第四号議案①小口太郎顕彰碑建立協力依頼（38回八幡栄一氏）②新田次郎記念室（諏訪市）（37回金子恭之氏）③藤原咲平記念室（同）（42回小口達雄氏）より資料収集協力依頼があり了承。事務局より各支部長の紹介があった。

続いて記念講演（講師紹介。51回山崎荘一氏）に移り城下町の景観に日本の良さを見出そうという「城と城下町の景観・名古屋工業大学教授内藤昌（51回）氏」十数年にして一店のレストランを六百余店に発展された経営談「わが社の経営戦略・すかいらーく会長横川端（51回）氏」の興味深い有益な講演があった。

終了後、遠藤智義（51回）氏の司会で懇談会に入り、諏中、清陵生時代の思い出に時を忘れ歓談。最後に全員で校歌斉唱、母校・同窓会の発展を願って万歳三唱。明年の再会を約して散会した。（金子　佳正記）

### 同窓会基本財産

〈昭和63年3月31日現在〉

基本財産　32,280,000円

内訳・定期預金　16,250,000円

〈諏訪信用金庫・八十二銀行ほか〉

・有価証券　16,030,000円

〈商工組合中央金庫〉

### 記念品会計報告

| | |
|---|---|
| 収入額 | 675,908円〈同窓会一般会計より〉 |
| 支出額 | 374,400円 |
| 差引残高 | 301,508円〈同窓会一般会計へ〉 |

## 名簿委員会報告

創立九十周年記念事業の一環として、十年ぶりに発行が企画された会員名簿は、発行を委託した「㈱スワデータバンク・代表桑沢和夫47回」の献身的ご努力で、把握率90%という立派なものが61年5月末に完成し、ご希望の会員に低価格で約六千余冊をお届けすることができた。

従って、名簿委員会の仕事の所期の目的を達したので昭和63年3月末をもって会計報告書を添え、委員会活動を終了させていただくことにした。今後の頒布・修正等の業務は同窓会事務局で行っていただくことになる。住所変更等お気づきの点は事務局までご連絡願いたい。なお、若干残部があるのでご希望の方は一頁題字下の要領で申し込みご購入下さい。

終りに名簿の発行計画以来今日までの長期間にわたる同窓会役員・学年幹事・会員各位のご協力に対し衷心より感謝申し上げ、委員会業務終結のご挨拶と致します。

名簿委員長　関　蓼彦（42回）

〃副委員長　岩波　誠司（47回）

〃　新村　良雄（49回）

委員一同

**同窓会員名簿会計報告**

| | |
|---|---|
| 収入額 | 1,175,000円〈広告収入等〉 |
| 支出額 | 401,390円〈名簿購入・会議費等〉 |
| 差引残額 | 773,610円〈同窓会一般会計へ〉 |

ご子弟の免許取得には
（東京方面の方は20日間で卒業できる合宿教習で）

長野県公安委員会指定
茅野自動車学校
茅野市宮川坂室5299番地　☎（0266）72-4111

代表取締役　桑沢和夫（47回）
専務取締役　矢崎斉男（51回）
渉外部長　上条雅夫（50回）

# 募金２億円突破

## ――募金状況報告――

現在の募金状況は、別表のとおりであります。

昨年同期と比較すると、お陰様で約二千七百万円の増となり、個人募金一五四六〇万円、企業募金一五〇社五一六〇万円で、募金総額は、ついに二億円の大台を突破することになりました。

ご協賛を賜った会員各位、各事業所の皆様に、ここにあらためて、心から御礼申しあげます。

なお、募金につきましては、一応、昨年六月末日をもって締切日といたしましたが、別表のとおり、学年によっては募金目標額に未だ達しないところもあり、最終締切月の延期のご要請もありましたので、寄付者芳名簿作成の時期を勘案して、六十四年三月末まで受付けることといたしました。

目標額未達成各回の、未拠出会員各位には、この機会に、再度ご協力をお願い申しあげます。

（募金委員長　小菅重男）

昨年二月、幹事会・記念事業正副委員長合同会議において、記念事業の各事業別経費が再検討され、総額一億八千五百万円が記念事業経費として予算化されました。

これにもとづき、募金委員会では、さらに約二千万円の増募を計画し、特に、六十回生以降の未拠出会員に、重ねてご協力をお願いすることにいたしました。

その結果、本年四月七日

**寄付金のお払込みは、下記口座へご送金下さい。**

○八十二銀行諏訪支店　（普）277569
○諏訪信用金庫上諏訪支店　（普）955156
○郵便振替　長野　7―18111
（宛先）諏訪清陵高校同窓会
校舎改築記念事業実行委員会
代表　山田六一

# 新校舎で全教科の授業開始

## ―校舎改築事業報告―

事務長　丸山和彦

校舎改築事業も計画どおり順調に進み、六十二年度には北校舎棟、昇降口棟、部室棟、クラブ練習室、三沢文庫及び同窓会施工による清陵会館が完成し三月十九日までにそれぞれ引越しを完了しました。

新学期から、全教科の授業等教育活動の殆んどが新校舎で展開されております。

六十三年度事業として五月から旧校舎の解体工事が始まり、部室棟、倉庫棟、自転車置場の建設工事は五月には発注され八月に完成の予定です。

講堂兼小体育館は六十四年一月から六十四年八月までの工期で建設することになっており建物についてはこれで全部完了することになります。

また、グラウンド造成工事及び周辺整備工事は六十三年七月に発注され六十四年十月に完了することになっておりこれをもって校舎改築の大事業が完成となる予定です。

ご家庭に健康と美とくらしのリズムをつくる
ドラックストアー　スズキヤ薬局
代表取締役社長
牛山　充正（51回）
牛山　直秀（89回）
■本社所在地　〒392　長野県諏訪市諏訪２丁目１－５

本　部：（〒392）長野県諏訪市諏訪二丁目１－５
電話　諏訪（市外局番0266）52―0588
研修センター：（〒392）長野県岡谷市本町二丁目2-19
電話　岡谷（市外局番0266）23―8486　岡谷店2F
諏訪店：（〒392）長野県諏訪市諏訪二丁目１―５
電話　諏訪（市外局番0266）52―0315
下諏訪店：（〒393）長野県下諏訪町中央通り２４１
電話　岡谷（市外局番0266）28―4147
岡谷店：（〒394）長野県岡谷市本町二丁目２―19
電話　岡谷（市外局番0266）23―8486
茅野店：（〒391）長野県茅野市塚原二丁目１―５
電話　茅野（市外局番0266）73―2971
岡谷東店：（〒394）長野県岡谷市若宮二丁目５―３
電話　岡谷（市外局番0266）22―9833

# 校舎改築記念事業会員募金状況 〈昭和63.4.7.現在〉

| 回 | 人数 | 募金額(円) | 目標額(万円) | 達成率(%) |
|---|---|---|---|---|
| —27 | 219 | 7,997,111 | | |
| 28 | 57 | 1,515,000 | 100 | 152 |
| 29 | 53 | 1,270,000 | 100 | 127 |
| 30 | 53 | 1,640,000 | 100 | 164 |
| 31 | 52 | 1,215,000 | 100 | 122 |
| 32 | 62 | 1,202,000 | 100 | 120 |
| 33 | 83 | 1,580,000 | 100 | 158 |
| 34 | 57 | 1,080,000 | 100 | 108 |
| 35 | 87 | 3,920,000 | 200 | 196 |
| 36 | 101 | 2,505,000 | 200 | 125 |
| 37 | 84 | 3,072,000 | 200 | 154 |
| 38 | 83 | 2,050,000 | 200 | 103 |
| 39 | 93 | 2,490,000 | 200 | 125 |
| 40 | 95 | 2,760,000 | 250 | 110 |
| 41 | 107 | 3,725,000 | 250 | 150 |
| 42 | 124 | 4,300,000 | 250 | 172 |
| 43 | 127 | 3,510,000 | 250 | 140 |
| 44 | 110 | 3,080,000 | 250 | 123 |
| 45 | 126 | 3,717,000 | 300 | 124 |
| 46 | 113 | 4,470,000 | 300 | 149 |
| 47 | 148 | 4,370,000 | 300 | 146 |
| 48 | 109 | 3,120,000 | 300 | 104 |
| 49 | 157 | 3,650,000 | 300 | 121 |
| 50 | 151 | 6,740,000 | 300 | 225 |
| 51 | 181 | 8,740,000 | 300 | 291 |
| 52 | 212 | 4,920,000 | 300 | 164 |
| 56 | 159 | 4,070,000 | 300 | 136 |
| 57 | 161 | 3,526,000 | 300 | 118 |
| 58 | 123 | 2,510,000 | 300 | 84 |
| 59 | 137 | 2,820,000 | 300 | 94 |
| 60 | 126 | 3,265,000 | 300 | 109 |
| 61 | 137 | 2,700,000 | 300 | 90 |

| 回 | 人数 | 募金額(円) | 目標額(万円) | 達成率(%) |
|---|---|---|---|---|
| 62 | 155 | 3,110,000 | 300 | 104 |
| 63 | 121 | 1,500,000 | 250 | 60 |
| 64 | 127 | 2,815,000 | 250 | 113 |
| 65 | 94 | 1,515,000 | 250 | 61 |
| 66 | 102 | 2,250,000 | 250 | 90 |
| 67 | 85 | 1,825,000 | 250 | 73 |
| 68 | 86 | 1,665,000 | 200 | 83 |
| 69 | 134 | 1,587,737 | 200 | 79 |
| 70 | 96 | 1,069,600 | 200 | 53 |
| 71 | 89 | 1,075,000 | 200 | 54 |
| 72 | 89 | 1,042,000 | 200 | 52 |
| 73 | 68 | 760,000 | 150 | 51 |
| 74 | 74 | 855,500 | 150 | 57 |
| 75 | 80 | 800,000 | 150 | 53 |
| 76 | 72 | 805,000 | 150 | 54 |
| 77 | 92 | 983,322 | 150 | 66 |
| 78 | 118 | 1,290,000 | 150 | 86 |
| 79 | 71 | 885,000 | 150 | 59 |
| 80 | 97 | 1,003,000 | 150 | 67 |
| 81 | 111 | 1,190,000 | 150 | 79 |
| 82 | 91 | 970,000 | 150 | 65 |
| 83 | 115 | 1,170,000 | 150 | 78 |
| 84 | 146 | 1,525,000 | 150 | 102 |
| 85 | 173 | 1,753,000 | 150 | 117 |
| 86 | 174 | 1,810,000 | 150 | 121 |
| 87 | 186 | 1,950,000 | 150 | 130 |
| 88 | 192 | 1,951,000 | 150 | 130 |
| 89 | 279 | 2,885,000 | 150 | 192 |
| 90 | 244 | 2,500,000 | 150 | 167 |
| 91 | 256 | 2,595,000 | 150 | 173 |
| 合計 7,504人 154,664,270円 | | | | |

注：(1)—27、27回生前同窓会員と新旧職員。
(2)55回生は52回に含む。


司法書士
土地家屋調査士
社会保険労務士
行政書士

**河西　勇事務所**

諏訪漕陵会(ボート部OB)会長　(55回)

河西寿恵 (83回)
河西かおり (85回)
河西美和 (91回)

諏訪市湖岸通り4-8-7(河西ビル)
☎ (0266)58-5315

# 校舎改築記念事業 順調に進む
## ―中間報告―

会員各位の本事業に対する多岐にわたるご協力により計画致しました事業が、次のように順調に進んでいます。

1、**清陵会館竣工** 設計監理 河西設計事務所、施工 諏訪土木建築株式会社のご協力により、昭和六十二年十二月末東校舎隣に完成。鉄筋コンクリート二階建、延べ三百二十九平方メートル。一階は食堂ほか、二階は同窓会事務室、大広間などを設けた。食堂はミーティングルームを兼ね、五十畳の大広間は合宿室兼会議室として使用する計画。浴室への引湯は六十四年秋の予定。玄関正面には、昭和三十年まで使用していた旧々講堂の窓枠を復元。玄関には山田会長揮毫による表札を掲げる。昭和六十三年一月末より新事務室にて業務開始。二月二十日に役員各位に清陵会館を披露。完成祝賀会は、記念事業完成時に合わせて実施。

2、**三沢先生記念文庫移転改築** 昭和六十二年十二月末新大体育館北側(旧文庫の上の段)へ、全額県費にて移転改築、備品費は同窓会負担、鉄筋コンクリート平屋建て、延べ七十八平方メートル。旧文庫より二十四平方メートル広くなっている。文庫の表札は前諏訪清陵高校書道教諭の太田谷山氏の揮毫。昭和六十三年五月より新文庫にて閲覧など開始。

3、**周辺整備** ①立川義明(37回)氏に依頼した彫刻「アーチ」(仮題)は原形完成、現在鋳造中。②細川宗英(49回)氏に依頼した彫刻「鐘」(仮題)は完成。③詩碑『自反而縮、雖千万人、吾往矣。』は書を平林舟鶴(37回)氏に依頼。以上の三点については、六十四年夏頃校地内に建立の予定。④植栽、校庭造成の推移に合わせて、昭和六十四年秋までに完成予定。

4、**改築記念祝賀総会** 諏訪清陵高校校舎改築記念事業完成記念祝賀総会の実施概要案が二月二十日幹事会にて次のように承認される。

一、実施期日 昭和六十四年十一月五日(日)(予定)

一、場所 諏訪清陵高校

一、実施方法 記念総会運営委員会を組織し事務局と連絡をとりながら実施運営にあたる。運営委員は50・51・52・55・56回生を中心に、サブ幹事として57・58・59回生を加えて実施する。なお、運営委員長には小菅重男(45回)氏が選出された。今後役員構成並びに実施計画を策定し、明年度会報に発表したいと考えているので、会員各位にはご予定に入れていただいてぜひご出席下さるようお願いする。

5、**その他**

○財団法人諏訪清陵会基金への寄付二千五百万円は今年度実施。

○同窓会基金への四千万円繰入れは今年度実施。

以上記念事業の中間報告を致しましたが、本事業に関するご意見など賜わりますれば幸です。

(事務局 木下 芳英)

**企業関係募金状況**
〈昭和63.4.7現在〉

| | 企業数 | 入金額 |
|---|---|---|
| 合計 | 150社 | 51,600,000円 |
| 本部扱い | 20社 | 30,950,000円 |
| 支部扱い | 130社 | 20,650,000円 |

支部扱い内訳

| | 企業数 | 入金額 |
|---|---|---|
| 富士見 | 9社 | 490,000円 |
| 茅野 | 13社 | 2,540,000円 |
| 上諏訪 | 33社 | 7,360,000円 |
| 下諏訪 | 19社 | 1,610,000円 |
| 岡谷 | 42社 | 6,600,000円 |
| 上伊那 | 7社 | 400,000円 |
| 東京 | 7社 | 1,650,000円 |

**清陵会館利用を**

新築なった清陵会館は同窓生皆さんの諸会議・会合にご利用いただけます。

ご希望の方は、同窓会事務局までお問い合わせて下さい。

肥料・農薬
農業資材
飼料・雑穀
工業薬品

茶屋商事株式会社

代表取締役社長 小口達雄 (42回)
本社 諏訪市大字中洲字曽根田4808
〒392 ☎(0266)52-6500(代)
出張所 上伊那郡箕輪町中箕輪11896
〒399-46 ☎(0265)79-8510

## 記念事業会計中間報告

(昭和59年４月～昭和63年４月)

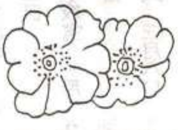
収入総額　94,828,810円
支出総額　93,759,336円
差引残額　1,069,474円

### 収入の部

| 科　目 | 収入済額 |
|---|---|
| 寄付金口座から繰入 | 94,812,995円 |
| 雑収入 | 15,815 |
| 合　計 | 94,828,810 |

### 支出の部

| 科　目 | 支出済額 |
|---|---|
| 繰出金 | 100,000円 |
| 会議費 | 903,720 |
| 通信費 | 1,677,660 |
| 消耗品費 | 471,978 |
| 備品費 | 87,550 |
| 旅費 | 461,975 |
| 印刷費 | 886,400 |
| 人件費 | 150,000 |
| 慶弔費 | 75,000 |
| 学年助成費 | 7,908,598 |
| 支部助成費 | 1,060,000 |
| 清陵会館建設費 | 64,500,000 |
| 清陵会館備品購入費 | 4,222,145 |
| 三沢文庫備品購入費 | 2,874,300 |
| 周辺整備費 | 8,316,400 |
| 雑費 | 63,610 |
| 合　計 | 93,759,336 |



## 校舎改築記念事業寄付金収支現計表

(昭和63年３月31日現在)

収入総額　216,944,780円
支出総額　95,265,615円
差引残額　121,679,165円

### 収入の部

| 項　目 | 収入済額 |
|---|---|
| 1. 寄付金 | 206,263,870円 |
| ・会員寄付金 | 154,664,270 |
| ・企業関係寄付金 | 51,599,600 |
| 2. 雑収入 | 10,680,910 |
| 合　計 | 216,944,780 |

### 支出の部

| 項　目 | 支出済額 |
|---|---|
| 1. 記念事業特別会計繰入 | 94,812,995円 |
| 2. 郵便局振替手数料 | 452,620 |
| 合　計 | 95,265,615 |

### 差引残額

| 項　目 | 金　額 |
|---|---|
| 1. 定期預金 | 119,271,320円 |
| ・郵便局 | 27,570,000 |
| ・八十二銀行 | 37,622,125 |
| ・諏訪信用金庫 | 43,869,630 |
| ・太陽神戸銀行 | 10,209,565 |
| 2. 有価証券 | 1,030,000 |
| ・商工組合中央金庫 | 1,030,000 |
| 3. 普通預金 | 1,368,854 |
| ・郵便局 | 802,305 |
| ・八十二銀行 | 339,199 |
| ・諏訪信用金庫 | 224,234 |
| ・太陽神戸銀行 | 3,116 |
| 4. 当座預金 | 8,991 |
| ・郵便局 | 8,991 |
| 合　計 | 121,679,165 |

高度な先端技術でオプトエレクトロニクスの
新しい分野へチャレンジ！

常に技術の限界に挑戦する
日東光学株式会社
本社・工場 諏訪市湖南4529／上諏訪工場／東京営業所

# 学校だより

今年度より、ほぼ完成した新校舎で、全生徒が授業を受け始めました。旧校舎とはまた趣きのちがう堂々たる建物は、未来に向かい伸びゆく若者を育む場として恰好の感じを与えております。

生徒諸君もこの学び舎で心を新たに、勉学・クラブ・学友会等に励んでおり、良き伝統を、さらに発展させようとする心意気をひしひしと感じさせられます。同窓会の皆様のこれまでの御尽力と御協力に改めて御礼を申し上げる次第です。

時代の変化は、必然的に学校教育に変化をもたらします。特に現代の映像文化や音響文化は、直接に生徒の心に忍び込み、その知的生活に微妙な影響を与えているようです。勉強時間は一日平均四時間は必要なのに、実際は二・五時間という本校の調査結果をみても、生徒自身現状に満足しているわけでなく、あるべき姿に戻りたいと思いながらもその温湯的生活から脱しきれない状態にあるということを感じます。現代社会が、子供を望ましい姿に成長させ得ないという矛盾を、清陵でも感じざるを得ません。

とは言え、伝統ある本校の生徒には、現代社会の問題点を見据え、来るべき時代に何をなすべきかの視点を持って、勉学に励む姿勢がうかがわれ、日常の生活・学習・クラブ・学友会等で見せる姿は、やはり清陵生としての自負を強く感じさせ、その将来に私共は強い期待を寄せております。

さて、この三月に314名(内女子108名)が卒業し、四月には359名(内女子131名)が入学し、全学年八学級の合計二四学級、総生徒数は一〇七一名(内女子336名)という規模になりました。

卒業生の進路は、二名が就職で、312名が進学ないし進学希望でした。国公立大へは、64名(昨年103)、私立大へ73名(昨年112)、短大・専門学校へ30名(昨年28)が合格しています。毎年変わる国公立大の入試制度に、生徒も教員もとまどいを感じざるを得ない現状ですが、私共は、原点に戻りあるべき姿を求め、一層の努力を続ける所存です。

次に、昨年度末人事異動は次のとおりです。

(敬称略)

**〈転出〉** 教頭・今村理則(赤穂高教頭)、柳沢均(屋代南高教頭)、数学・植原操(富士見高)、今村智司(阿智高)、理科・五味常春(松川高)、宮澤順成(松本美須々ケ丘高)、社会科・宮川正博(明科高)、長谷川良博(阿南高)、音楽・長谷川和生(坂城高)

**〈転入〉** 教頭・白澤寛人(中条高教諭・数学)、数学・赤羽建利(梓川高)、小野純生(上田千曲高)、社会科・大矢均(中野西高)、平沢裕二(北佐久農高)、林芳男(岡谷工高と兼務、諏訪実高)、理科・北原勉(飯山南高)、音楽・林隆憲(飯田風越高)、理科・市瀬研一(新任)、西牧岳哉(新任)、英語・堀裕(新任)、国語・中村大裕(新任)

**〈事務室〉** 事務局補佐・牛山節夫(退職)、同・白田永治(諏訪実高より)

なお、今年度の主な学校行事は次の通りです。

○清陵祭　七月二二日～二四日
○端艇大会　九月二四日
○湖周マラソン　十月二九日、同窓生の皆さまも奮ってご参加下さい。
○二年研修旅行　十一月八日～十一日
○共通一次試験　一月二一日～二二日
○スキー教室　一月二五日～二七日
○卒業式　三月八日

××××

私事で恐縮ですが、このたびの異動で新任教頭として、再び本校の若者と学ぶ機会を与えられました。昭和四二年から八年間数学担当として、本校にお世話になり、三十代半ば迄教師として最も成長するといわれる時代を、清陵で過させていただき、私の教師としての基盤を本校で培いました。それに感謝しつつ、再び本校に勤務できることを光栄に存じ、本校発展のために、微力ではありますが、全力をあげ努力精進して参りますので、よろしくお願い申し上げる次第です。

(教頭　白澤　寛人　記)


“みすずかる信濃の国の香をこめて
食卓にそえる真心の味”

――浅漬・漬物・佃煮の御用命は――

株式会社 マルモ高木

代表取締役　高木常雄(33回)

本社・工場　〒394 岡谷市今井1870
☎ 0266-22-2619 (代表)
配送センター　〒394 岡谷市赤羽3―7658―1
☎ 0266-23-0200 (代表)
長野営業所　〒380 長野市東和田南沖784-3
☎ 0262-44-2720 (代表)

# 清陵高校の教師となって

33回生　岩井真澄

昭和二十二年の夏、二学期から清陵高校職員として勤めることとなった。

実はその年の四月京都府立宮津高校から新制大学となった旧京都師範学校へ転出したばかり。住居も定まらず単身赴任の状態だった。

夏休みとなり帰郷したところ父が病気でしかも経営していた辰野劇場が老朽も甚しく、たまたま税制の改正で入場税一五割の内一〇割が町税収入、五割が県税ということとなったので、この際町営でやっていこうという町議達の策謀があるとのことで急ぎ帰郷して対処してほしいと要望され、あわてて清陵高校を訪ねたところ、千野校長先生から是非すぐ来てくれと言われとり急ぎ京都へ行って夏休み明けを待っての転出をお願いした訳である。然し就任早々の再転出では師範の校長も仲々許してくれる筈もなくやむを得ず強引に帰郷してしまうという無茶な転勤をして清陵高校に御厄介になるといういきさつであった。一人息子の悲哀とでもいうべきか。八月三十日から昔通った上諏訪までの汽車通学を再び味うこととなったのである。然し学年中途でもあり受持学科は来年四月まで我慢せよとのことで新制中学一年には国語文法、同二年には英語副読本、新制高校一年には漢文副読本、同二年には時事問題、同三年には文学史という様々な残された科目を担当せよとの御託宣。五学年に亘って週一時間乃至二時間の授業のお蔭で顔は覚えて貰ったが生徒の名前は誰一人覚える暇もなかった。ところが劇場の方も免倒みなくてはならないがおんぼろ芝居小屋で窓ガラスは一枚もなくこわれタタミはボロボロという始末。しかも月何回かの巡業芝居や浪花節等の興行もその度に赤字の状態。これでは駄目、何としても映画の時代だと思って週一回の映画上映を知り合いの塩尻の映画館とタイアップして行うことにしたのである。そして固定層をふやすため各事業場労働組合を廻って話し合ったところ、〝映画常設館にしろ〟との声がひんぴん。如何せん資金の面でとてもとても夢だと思っている矢先、先輩の口入れで〝君が本腰入れてやるならいくらでも資金面で協力する人がある。紹介するから…〟とのアドヴァイス。あれやこれや映画館にする為の方策を考えた掲句、どうしても学校をやめざるを得ないこととなってその年の十二月退職を願い出て翌年一月末にやっと許可がおりて何カ月かぶりで京都からの転任旅費やら退職金をもらったことも懐かしく思い出される。十二月末生徒達にお別れのあいさつをしたあと、同僚の数人が送別会をやってくれた。〝お前という奴はヒデェ野郎だ、清陵に二回演説しに来ただけじゃないか、就任と退任の。〟と大笑いしながら上諏訪中のスナックを飲み歩いたことも忘れ得ない思い出である。

清陵の高校にも先生方にも生徒諸君にも誠に勝手我が儘な申し訳ない教師だったと心からお詫びしたい。

その後伊那北高校などに遠征に来る運動部の諸君達が乗り換え駅の辰野に下りて時間待ちによく映画館を訪ねてくれたものだ。昭和三十二、三年頃までは映画全盛の時であった。時々逢う卒業生の諸君が病院で診て貰う医師であったり、地方事務所の職員で入場税の督促にきたのが教え子だったり、〝催促しにくかったよ〟なんて述懐して大笑いしたものだ。人生のニュアンスある一こまでもあろう。何れにしても僅か数カ月足らずではあったが清陵高校の教師を勤めた思い出は限りなく懐かしい。

帰郷して退職して映画館経営に入ってから数年後、長男が清陵高校に入学と共にPTAや同窓会等で時々母校に顔を出すこともあり恩師の小沢、長坂、吉江先生方を囲んでの同級会など清陵高校での僅かの教師生活は私の人生航路の大きな一ページであることを感ずる。新製成った母校はまだ見ていないがいつの日か訪ねてみたいと思っていると共に最近作られた「ああ博浪の槌とりて」の掛軸を飾って更に一層懐かしい思い出に浸っているこの頃である。


地元と共に

**諏訪信用金庫**

会長理事　山岡利平（28回）
理事長　宮坂久臣（49回）
本　店　長野県岡谷市幸町7番41号
TEL　岡谷(0266)23-4567

# 私の清陵高校

56回生　青木瑞枝

私が清陵高校へ入学したのは、昭和二十五年春でした。終戦後の混乱期を脱した頃で、不景気な時代でした。

戦後の民主主義と平和のおかげで、男女共学の世となり、伝統ある清陵高校へ、女子入学が許されるということで、第一回生として、仲間十数人と共に大した受験勉強もせず、意気込みもなく、ただ良妻賢母教育が嫌なのと「女も手に職」という親の方針で、大学受験予定があったための便宜で入学しました。

さて、思い出の一頁目は入学当日の思い出でしょう。私のクラス担任は横鉄(横山先生)で、化学教室の大きなザラザラした机とささくれだった床にびっくり。級友の殆どが男子なのは覚悟の上か、自分の女の子意識の希薄なためか別に驚きもしませんでした。

入学一番の感慨は、母の話でした。当時の千野校長が、特別に校長室へ女子の父兄を集め、その席上で、上諏訪温泉芸者の老妓の、その孫に対しての躾を例に、一芸に秀でた者は、大した教育者だと話されたようです。母は、人を差別視せず自由な教育方針を持った校長の学校で、娘が教育を受けられると、喜んでいました。

いよいよ授業開始で、自分の希望通りのカリキュラムで受講でき、その授業の質と量は相当なものでした。私は授業が楽しく、水準も高くてついていくのに忙しく、周りの男子に目移りする暇がないのが実情で、男女共学を感じている余裕がありませんでした。

授業内容の一部は、今でも何かの折りに思い出します。

例えば、笹子トンネルを抜け、眼下に広がる葡萄畑を見ると、マムシ(百瀬先生)の授業での、扇状地の説明のきれいな板書を思い出し、棟方志功作、豊満な天女図の箱書き、変体仮名の家持の歌「わが宿のいささむら竹…」の一首と解読できた時は、小島先生のプリント刷りの別教材を読んだ時の楽しかったことを思い出し、一枚の板チョコを口にして、牛正(牛山先生)のユーモラスな生物の時間での、ホヤの生態の話や、医学部進学についての温かい励ましを思い出します。

やはり一回生ということで特別視され、生徒会の折、先輩の名演説の中で、伝統ある清陵高校へ女子が入るとはと、嘆き節を聞いた時は、女子は当時の受験雑誌の付録みたいなものだと痛感、以後卒業まで、付録意識は脱けませんでした。

一方では随分甘やかされ、体育の時間は女子だけでバトミントンなど優雅なものでした。女子だけで固まって体育教官室に入り込んだり小使室脇の更衣室でペチャクチャやっておりました。

クラブ活動では各自好き勝手に入部。文芸部、英語部が多かったようです。私は新聞部でした。部室では想像もしなかった新しい議論に、幼稚な頭で理解もさっぱり、感心ばかりしておりました。

男子校に入った少数の女子なのだという実感は、秋の学校祭の演劇にかり出されたことでした。演劇少女でもないのに「邯鄲の夢」のおばあさん役で出演しました。後半は、台詞も台本通りできなくて夢中でおわりました。

その反省会が八剱神社の社務所で行われ、大勢でワイワイと文学論か演劇論か大層な熱気で論じ合うのを聞きほれているうちに、午前様となり、帰宅して母にだいぶ叱られました。以後学校側から何のおとがめもなく、今考えても先生方は生徒を信頼し、暖かい目で見守って下さったと恐縮しております。

校内に入ってすぐの大きなヒマラヤ杉、玄関脇の芽ぶきのきれいな落葉松、靴屋のおじさんのまわりに黄色い落葉の吹きだまりを作る銀杏、渡り廊下の梅、いつも誰かが乗っていた校庭隅の大石など、信州らしい自然の中のオンボロ教室に優秀な先生方と多士済々の生徒達のいた清陵は、今でも懐かしいの一言に尽きます。

私の現在の生活姿勢の礎は、清陵時代に築かれたものが大きく、卒業後三十五年経った今でも、母校清陵に感謝しております。

ご子弟の自動車免許取得は

長野県公安委員会指定

㈱ 松電諏訪自動車学校

（日曜日・祝日も教習を行います。）

諏訪市大字四賀929—1

☎ (0266)52—2756

社長　滝　澤　至

校長　中　村　重　光(42回)

# 高速交通時代とまちづくり

現在、山梨大学工学部環境整備工学科で都市計画・交通計画・観光計画に基礎をおく地方都市の研究に従事しています。諏訪の地を頭に置きながら、都市の盛衰ということを中心に書いてみようと思います。

**一、地方都市の捉え方**　交通の発達、特に昭和三十年代以後の自動車の発達は私たちの生活のリズムを大きく変えました。それは日常生活における時速四キロの世界から時速四十キロの世界への行動圏の拡大でした。かつては隣のまちへ行くのに徒歩か自転車で、あるいはバスや汽車で何時間もかかったがいまはほんの十分か十五分で行ってしまいます。昔は隣まちへ行くのにも容易でなく、独立色の濃いまちやむらが存在し、相互交流は節目の行事や祭りを通して行われているに過ぎませんでした。

自動車の発達によって交通上の抵抗は取り去られ、仕事場や通学先をより自由に広範囲に捉えることが出来るようになりました。こうして日常生活における従来のまちやむらの境は取り除かれ、今や合併によって拡大された行政区の市町村をはるか越えたところで、私たちの生活は成り立っています。そして高速交通路の発達・普及によって生活の行動圏はもう一段上って時速八十キロ以上の生活に入ってきました。行動範囲の違いは距離の二乗できいてきますから四キロの世界、四十キロの世界、八十キロの世界の違いは大変なものであります。

**二、地域の盛衰**　自動車による交通の発達がもたらした地域のゆさぶりは地域の変化を余儀なくしました。それは力のある場所をますます盛えさせ勢いのないところを吸収し衰えさせます。人間の変化対応と地域の盛衰はうらはらの関係にあります。現象の第一は昭和三十五年頃から始まった農村の崩壊・過疎化の進行ということでした。反対に大都市への人口集中の現象がみられました。高速交通時代と高度情報化社会はこの傾向を極端に強め、特に東京一極集中が顕著であることが最近の特徴的な現象です。現象の第二は地方都市の相対的衰退ということです。経済・文化・社会などの都市の勢いを示すいろいろな局面を時間的にみて、マイナスになってはいないが伸びは高くないという現象。これは全体からみれば相対的に衰退ということであります。第一の現象がはっきり私たちの感度に触れるのに、第二の現象の感度は鈍く時間がかなり後になって気付きます。高速化・情報化が進めば進むほどこの傾向は進展します。

**三、まちづくり**　その長所はわかり切っていますから、高速交通時代・情報化時代は私たちの夢です。けれど、その裏で以上にざっと述べたようなことが起こっています。活気ある場所をますます盛えさせ、弱いところに追い打ちをかけていためつける。これが高速交通時代や情報化社会の一面です。

わが郷土・諏訪の地にも相対的衰退現象があって、まちづくりに一層の努力を傾けなければ危ないという問題があるのではないでしようか。高速化・情報化に乗り遅れると地域は取り残されます。それゆえ、諏訪の地方にもリニアモーターカーなどの高速化策が是非必要です。しかし、それのみでは片手落ちで、そういう時代に活性化するまちづくりの努力がなければなりません。

第一は産業基盤をどう作りなおすかということ。

第二は教育・文化の基盤をどう作り直すかということ。

第三は個々の住民がまちづくりに積極的に参加（公共参加）し、自由で魅力ある社会を作るためにどのように責任と義務をはたすかということ。

第一、第二は地域のリーダーが、第三は市民レベルが、かなり真剣に考えて、実行に移す時期に来ていると思います。いま地方の健全性が問われている時代です。

山梨大工学部教授
62回生　花岡利幸

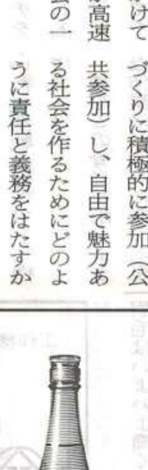

## 『真澄らしさ』について一言

——信州が生んだ天下の銘酒——

てらわず、気取らず、さり気なく。少しも飾りはないけれど、真澄はなぜか暖かい。——あるお客様からこんなお手紙を載いて嬉しく思ったことがありました。

全国屈指の品評会入賞回数を誇る酒蔵として、七号酵母発祥の酒蔵として、真澄は常に酒造りの正道を歩むことだけを考え続けてきました。昔も今も私達にとって一番大切なのは、外見を派手に飾ったり奇抜な個性で人目を引くことではなく、原料を厳選し、技術を磨き、妥協を排除して、いつの日にか『天下の銘酒』と呼ばれる酒を醸すことなのです。

地味だけれども文句なしに旨い——そんな真澄らしさを大切にして、これからも私達は美酒造りの心と技を精一杯磨き続けてまいります。




真澄

# 思い出の新田次郎

阿木翁助

新田次郎こと藤原寛人君とは、諏訪中学の同じ教室で机を並べたつき合いである。

彼は名前をその儘音読した「カンジン」が愛称で、私は新任の物理教師が、私の本名の鉄翁を〝鉄扇〟と誤読したのがもとで、今でも級友は「テツセン」と呼ぶ。

カンジン少年は、至極く生真面目（きまじめ）な勉強家で、テツセン少年は〝ゴタ〟と呼ばれる悪童の一人であった。

私達は昭和五年の春、諏中を卒業した。

昭和十一年、私が新宿の「ムーランルージュ」という小さな劇場の作者をしていた時、ある日カンジン君が劇場へ訪ねて来た。私の稚拙な芝居を見て貰った後私達は「武蔵野館」前の「佛蘭西屋敷」という喫茶店に行った。当時ムーランには、もう一人諏訪中の級友宮阪政武(劇団民芸の宮阪将嘉)が「ムサシノ漸」の芸名で俳優をしていた。

コーヒーをのみ乍らカンジンは言った。「君たちは好きな事をやって飯がくえるからいいね」と。

「君も好きな事をしてるだろう」と、私も言ったような気がする。そのころ彼は「中央気象台」に勤めていた。彼の伯父さんは中央気象台の長であり、有名な気象学者だった。そしてカンジンは、わが諏中の名物先生、天文学の三沢勝衛先

書いているんだ。よんでくれ」とテレくさそうに差し出した。

それからしばらく後、東京へ〝単身赴任〟でラジオドラマを書いている私の所へ彼から「会いたい」と連絡があった。日比谷の喫茶店で会うと、彼は文鞄から、部厚いゲラ刷りを出し、「女房がこんな物を書いて、今度出版する事になったが、おれはこういう事馴れないから、一緒に出版社の人と会ってくれ」という意味の事を言った。それが『流れる星は生きている』だった。

幸い出版社の社長が、戦前文芸春秋社の編集者で、旧知の香西という人だったので、彼と共に香西氏の奥さんが経営する喫茶店で会い、印税の事など話しあった。その本はベストセラーになり、彼カンジンは、「藤原ていさんの御主人」など と人に紹介される身となって、多少ひけめを感じていたようだ。

しかし、それでしょんぼりするような男ではない。大いに発奮して小説を書き、サンデー毎日の懸賞に当選した。それが『強力伝』だ。

やがて数年後、彼は「直木賞」をもらったが、その受賞パーティでスピーチを指名された私は「……有名女性の亭主は、ひとから〝何旦那（ダン）〟などと呼ばれてくさるものだが、彼は自分も書く事でそれを克服した…」というような祝辞を述べた。こうしてカンジンは一流作家になったのだが、彼の書いた小説は、あくまでも〝科学者〟の小説である。科学小説ではなく、科学者の目で「真実」を追究する小説なのだ。

例えば「八甲田山」の雪中行軍で一個中隊が全滅した歴史的な、然し今では埋没している「事実」を、あく事なく掘り起す。「公的記録」「新聞記事」をしらべ「遺族」「関係者」を歴訪し「実地踏査」し、徹底的に「取材」する。

そしてなおわからない部分は「推理」する。いや「考察」といった方がいいかも知れない。資料が整った所で、いよいよ「執筆」だ。

それは駒ケ岳の遭難を書いた『聖職の碑』でも同様である。

彼のこの骨身を削るような作業は、確かに彼の死を早めたに違いない。

しかし、新田次郎は生きている。

今や「中央線」に乗れば甲州から信州へと、沿線に林立する「武田信玄」の旗がイヤでも目に入る。

この一年、日本中の人は新田次郎が魂を入れた「武田信玄像」を見ることだろう。

三十一回生

……ラマ放送の……に寄せて

新田君の若き日

眉毛はいよいよ濃く、笑顔は柔和を加えた。この時の記念写真が残っている。新田君の左隣りに私が座わり、右隣りに阿木翁助君(日本放送作家協会理事長)が座わっている。何か共通の話題があり、そのついでにこのように並んだと思われる。話題は思い出せないが、人に頼まれてにこやかにサインをする姿が眼に浮かぶ。なお写真を見ると、私の左隣りの恩師を隔てて、林百郎君(前国会議員)の顔も見える。

と」が始まった。この中に武田氏と縁あるわが祖小尾氏が出てこないのが気になり、それを専門とする新田君に尋ねたことがある。彼は折り返し即座に「自分の本には書いてあるから」と言って、「武田信玄」四冊を恵贈してくれた。その友情の厚さには頭の下がる思いであった。

以来再び会うことはなかった。彼が亡くなる半年ほど前、河出書房新社の編集員を紹介してやった所「それに応ずるような時間的余

工作機械・工具・関係電子機器・電気絶縁材料の総合商社

Ⓚ 国興工業株式会社

本社　長野県諏訪市大字中洲4600番地

TEL (スワ) (0266) 52-2457

諏訪・岡谷・上田・伊那・大宮・松本・甲府・佐久・長野・飯田・東京

# NHK大河ド

# 武田信玄

「春風や次郎の夢のまだつづく」が刻まれた諏訪市正願寺の新田次郎の墓碑

生の愛弟子の一人であったからだ。

その時彼がどんな表情をしたかは記憶にない。次に彼と会ったのは、戦後のある日、上諏訪の「手長神社」でクラス会をやった時だ。

久しぶりに会ったカンジンは、鞄から二、三冊の雑誌（子供の科学?）をとり出した。「おれ、少年小説を

小尾郁一

旧制諏訪中学校時代の藤原寛人君の印象を頭に浮かべるけれども、往事茫漠、かつての強き印象も薄れてしまった。今はただとりとめのないことだけが残っている。彼は角間新田から、私は茅野からともに徒歩で通学。放課後は北と東に別れて家路に急ぐ毎日であったから、語りあう機会はあまりなかった。五年間、毎年クラス替えがあったから、同じクラスになった時があったかも知れない。四年生の時はクラスを同じくしたようにも思う。というのは思い出すことがあるからである。四年になると鉱物なる学課があり、牛山伝造先生が担当された。藤原君は鉱物が好きであったらしく、絶えず岩石を撫でて鑑定していた。ある時、黒い石を持って来て「小尾、この石は何の石かわかるか」と、ぶっきらぼうに言った。鉱物は私の苦手とする所であるから、石の見わけなどつきようがない。黙っていると「お前、この石を知らねえのか、これが安山岩だ」と教えてくれた。その笑い顔は憐むようでもあり、得意そうにも見えた。無理もない、安山岩はわが地方によく見られる石であり、牛山先生の力説された石であった。牛山先生は、私の保証人であり、その先生の教えて下さる学課になじめず、力説された石も知らなかったことは、恥かしい思いであった。

古き写真帳をめくると、藤原君と一緒に撮った写真がある。運動会準備のための装飾部員としてである。この部のしごとは運動会当日の飾りものを作るしごとである。部長は島田喜仁君（前石油公団総裁）、部員には古畑正秋君（前東京天文台長）の顔も見える所からすると、多少その心得があった面々が選ばれたのかも知れぬ。運動場のすみの金網のネットに、当時としては珍しい恐竜の巨大な絵を飾り、その前に張りぼての恐竜を飾りつけた。これは繭籠を重ね、その上に紙を張り色を塗ったものである。放課後、全員が和気藹々として冗談を言いつつ一週間ばかりで作りあげた。むろん藤原君も熱中したが、無口と思われた彼が、意外にも軽い冗談を飛ばして人を笑わせた。そのことばは頭に残らないが、その丸顔の笑顔だけが、頭にこびりついて離れない。

爾来相見えざること四十年。卒業四十周年記念会が藤森伝衛君（竹屋味噌会長）宮坂水穂君（宮坂醸造副社長）の斡旋で、諏訪で開かれた。四十余名相会して久闊を叙したが、藤原君は、今や新田次郎と名のり、直木賞作家として天下に知られ、時に「霧の子孫たち」を執筆中であった。語ることばは丁寧であり、礼を心得ていた。四十年の風雪に堪えた過去の重みを秘め、

この会の後、ホテルを偶然共にすることになった。彼は、明日は霧ケ峰に行くと言い、その自然保護の必要性をことばは少ないが、一語一語力をこめて同意を求めるようであった。傍らで聞く亡き青木産婦人科医師も頻りに頷いていた。酒のグラスを傾けるうちに、この日の同級生たちの人物月旦が始まり、二人とも思わず饒舌になってしまった。まことに愉快な一夜であった。

広島に帰り、まもなくNHKの大河ドラマ「天と地

裕はないし、お役に立たず御寛容下さい」という鄭重な返事であった。彼の友情を感ずるとともに、この頃は、よほど多忙な日常であったと想像される。

今NHKの大河ドラマ「武田信玄」が始まっている。好評である。見ていると、この原作者が、かつて若かりし日安山岩を弄んでいた藤原君とは、とても信じ難い。

（広島大学名誉教授）

三十一回生


田中貴金属特約店・銀座山崎提携店
宝飾品・時計・メガネ・高級ギフト・レコード

諏訪 茅野 松本 東京

ヤマザキ

本店　諏訪市諏訪1-3-11☎(0266)52-5200(代)

代表取締役　山崎壮一（51回）
取締役　山崎俊一（80回）
取締役　原英充（65回）
総務部長　岩波秀成（66回）

# '88年・55歳・私は今
## ――52・55回生アンケート紹介――

〔思いつき〕
当番学年は一生に一度だけ。何か記念になるものを残したい。しかし、個人プレー的なものは好ましくない。甘ったれで、皆で群れていた我々の学年――52回生は四年間も最下級生だった――らしく集団的なものを！

東京支部幹事会（8名）のこんな思いつきから52・55回全体の取組みとして、同期生データーベースの作成、同期会の愛称募集、アンケートの実施が決まった。

〔趣旨・質問事項〕
55歳という節目を迎えるこの時、我が同期生の生き方、考え方をデーターとして残すべし。との高邁な趣旨が即決されたが、各論――質問事項に入るや二葉生を女房にした奴は何人いるか、定年後は諏訪に帰るつもりだが皆はどうか調べよ、から始まって酔いの廻りにつれて〝不倫度〟まで飛び出す始末。牛山之雄先生が高悟帰俗とおっしゃっていたけれど…。結局、裁断を下すリーダー不在で、〝分子活動〟活発な我が学年らしく、番外10問を含む玉石混淆の30問となった。

〔回収状況〕
校舎募金（2回）、牛山正雄先生記念文集など、常に二〇〇名を超える結集力に期待したが、回収は一三〇通、45%の回収率にとどまった。短期間、愛称応募とのセット方式、一回だけの通知などの影響も考えられるが、ちょっぴりズボラな面も感じさせられた。

回答者は親は在諏・本人非在諏55%、共に非在諏25%、在諏20%に大別できる。

◆アンケート委員会は大谷溥、河西和彦、原田睦明の三名で構成（文責・大谷）。

〔ロデータ〕
☆本籍が諏訪にある者44%。お墓を諏訪にと考える者35%（非在諏者96名の回答）

☆趣味ではゴルフ43%、酒42%が第一ランク。在諏組では酒が50%で断トツだがゴルフは25%（5位）。非在諏組のトップはゴルフ48%、2位が酒の40%となる。

☆算術平均値は正しいか？
○交友同期生　10人
○海外旅行　3回
○生きたい年齢　80歳
○お小遣　7万円
○交際費（仕事上）44万円

## 平均像

（清陵）時代を楽しい思い出として持ち、清陵が自分の人生に与えた影響は大きいと考えている。

今でも同期生10〜15人と付き合い、時々、公私両面で清陵出身者と頼ったり頼られたりしている。

（諏訪）に両親を残し本人は諏訪以外に住んでいる。多くは諏訪人の特性を相当持っていると信じておりその特性として「筋を通さないと気が済まない」「勤勉（手堅く、実利的）」「知的関心が強い」などを挙げている。

（仕事・余暇）現在の仕事には満足しておりや働き過ぎと思っている。いわゆる仕事人間であり、〝花金にハメをはずすということもないし、カラオケもあまり得意ではなく、お付き合いでマイクを握るか、強制されて重い腰をあげるといったところである。

読書状況はさすがに高いレベルにあるが、やはり仕事上の勉強という比重が大きい。しかし、パソコン・ワープロ等、OA機器の扱いは苦手である。

仕事上つかう交際費は年に30〜50万円程度である。

（家庭）結婚は恋愛、見合い半々。夫婦仲は円満で、円満の秘訣―操縦法として妻と話題や趣味を合わせることと答えている。

子供は男女一人ずつ。内一人はすでに社会人になっているがオジイチャンになっている者は未だ少ない。

小遣は月額6〜7万円程度である。

（将来）健康に恵まれ、仕事人間で通っているが、これからは仕事と自分中心の生き方を半々位にと考えている。しかし、定年後の人生設計を具体的に考え、着手している者は少ない。

海外旅行は出張を含めて数回経験しており、日本の将来については「明るい」と考える。平均寿命よりは少し長い77〜80歳まで生きたいと思っている。


コンピュータコントロール社会のアキレス腱
電磁波公害（EMI）防止に盡くす
株式会社 電研精機研究所
〒203 東京都東久留米市八幡町1-4-21　☎ 0424-73-3745（代）
FAX 0424-74-0613
代表取締役　矢ヶ崎昭彦（47回）

## 諏訪人は筋を通す

8項目を挙げて「貴方の持っている諏訪人の特性」を求めた(複数回答)。ベスト3は①「筋を通さないと気が済まない」59%、②「手堅く、勤勉、実利型」45%、③「知的関心が高い」36%と一般的に言われている特性を追認する結果となった。

諏訪人度の回答をキイに強い者、半々、弱い者の区分で8項目を分析してみるとやや変化が見られる。諏訪人度の強い層では、④「負けず嫌い」34%、⑦「ズケズケ物を言い、手加減しない」27%が浮上する。この二項目は半々、弱い層では全体平均の半分程度の比率しかないが、それが逆に諏訪人の特性かもしれない。

⑥「自分中心に考える」は弱い層で35%、半々で29%と高いが強い層で12%であり、前述の考えに立てば諏訪人の特性とは言えないことになるが、いかがなものであろうか。

⑤「色気(余裕・ユーモア)がない」は3グループ間に殆んど開きがないのが特徴。⑧「物事を悲観的に考える」は全体で7%しかなく、特性に非ずとの判定ができる。

## 二葉生獲得は地元有利

二葉生を妻にと考えたことがありますか? に39名30%が「ハイ」と答えている。意外に少ないのは我が学年の〝幼なさ〟~真面目で高校時代に結婚のことなど無関心であったせいか。

さて、想いの達成度は? 妻にしている者19名(15%)で、49%の達成度となっている。2人に1人は想いを遂げたわけだから良しとすべきか、他学年の達成度を知りたいところである。

19名の倖せ者は在諏10名、非在諏9名で、諏訪在住者は百%なのに対して諏訪以外の者は31%。3人に1人しか想いがかなわなかったことになる。「ほれて通えば千里も一里」と言うが、やはり距離の壁は厚く、地元有利を証明するデーターであった。

念の為、〝倖せ者〟の夫婦円満度は全体の回答より高かったことを付け加えておく。

30問のうち、左表の17問は5段階(1~5)で回答してもらった。3を中間的(半々・どちらとも言えない)回答として、1と2は肯定的、4と5は否定的な回答という内味である。

与えられたスペースではこれ以上、個々にコメントすることは難しいので、別表の通り結果数字(%)だけをお知らせする。

質問の内味も要旨だけでは意をつくさない恐れも多分にあるが、「平均像」を参考に、諸兄の豊かな想像力推察力をもって読みとっていただければ倖いである。

### 5段階回答・集計結果一覧表 (17項目)

| Q ＼ A | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---|---|---|---|---|---|
| 清陵の想い出の楽しさ度 | 7 | 62 | 25 | 6 | 1 |
| 人生へのプラス影響度 | 38 | 53 | 9 | — | — |
| 清陵生との相互依存度 | 3 | 16 | 33 | 40 | 8 |
| 同窓会への参加協力度 | 5 | 29 | 59 | 5 | 2 |
| 定年後は諏訪に帰るか | 3 | 13 | 23 | 16 | 43 |
| 諏訪人度はどの程度か | 5 | 48 | 29 | 13 | 4 |
| 将来像と現実の違い度 | 6 | 30 | 33 | 13 | 19 |
| 現在の仕事への満足度 | 18 | 59 | 14 | 6 | 3 |
| 働き過ぎと思っているか | 23 | 51 | 13 | 12 | 2 |
| 今後自分中心で行くか | 17 | 34 | 33 | 10 | 6 |
| 定年後の人生設計度 | 6 | 22 | 38 | 28 | 7 |
| 健康状態は | 18 | 57 | 13 | 10 | 2 |
| 日本の将来は明るいか | 2 | 58 | 24 | 15 | 1 |
| OA機器への適応度 | 13 | 13 | 17 | 28 | 30 |
| 花金は遊んで過ごすか | 1 | 13 | 78 | 2 | 8 |
| 夫婦仲は円満か | 31 | 52 | 16 | 2 | — |
| カラオケへの適応度 | 1 | 17 | 36 | 21 | 24 |


中央印刷株式会社

〒394岡谷市川岸上一丁目1-20☎(0266)22-5551(代)FAX(0266)24-0304

代表取締役会長　林　清市(30回)

代表取締役社長　日岐弘登

株式会社 中央企画

〒392諏訪市四賀赤沼1844-1☎(0266)58-2384(代)FAX(0266)58-2901

代表取締役社長　石井睦蔵(37回)

いつの日も
フレッシュ感覚

●画集・歌集・書籍等の企画・編集・印刷
●パンフレット・カタログ・ポスター等の企画デザイン・広告文案・写真撮影
●テレビ・雑誌・新聞等の広告代理

# 生きた言葉

42回生　小平　祐

秋色の濃い神宮外苑の日本青年会館で、私は一つの挨拶をした。定例の第21回東京支部総会で、私が新支部長の大役を仰せつかった際のことである。

故郷の香りが漂う会場には、山田・小口・石井正副会長、役員諸賢、来賓の著名人、立派な先輩達が居並んでいて、困惑の中にも、緊張の一瞬であった。

壇に立っていて、私は「我が同窓会は他に類を見ない会である。それはメンバーの一人一人がきらきら輝くような存在だからだと思う。〝薩摩の大提灯、信州の小提灯〟という言葉がある。我々信州人は、号令一下、大提灯の下へ集まるのは不得意だが、小さくても夫々に提灯を持って集るのは見事である。この同窓会も、皆で力を合せて、灯を掲げるような集いにして頂きたいと思う。未熟な支部長であるが、何卒宜しく御願い申し上げたい。」という趣旨のことを申し上げた。

ところがこの挨拶の評判はあまり芳しくなかった。

どうも、井出孫六さんの言葉を、私が消化不充分のまま借りたのが不評の原因だったと反省させられた。

暫らくの後、暖冬で水面を露わした諏訪湖畔の母校で、本部幹事総会が開かれた。

その日の帰りの車中での雑談の際、保延事務局長の御好意があって、後日、寺島幹事さんから中学時代の教科書〝岩波の国語〟十巻を拝借することができた。

その表紙は、懐しい浅葱色の錦織狩猟文様である。当時を思い起しつつ、深い感動を以て、通読させて頂いた。

私の記憶の通り、巻一の冒頭は、〝生きた言葉〟という随筆であった。

「一人の新入生徒が、だまって私を追い越していった。やがて彼は私が先生であることに気がつくと、立止った。そして、〝お早ようございます。私はさっき先生だと知りませんでした。〟といってお辞儀をした。このひたむきな言葉が私の心を明るく、楽しくしてくれた。」という出来事が紹介される。更に作者は、

「中学生の純真な言葉は〝生きた言葉〟であって、道元の〝愛語〟に通じるものである。場を得た本気の言葉は人を喜ばせる力がある。と同時に自分をも啓発する。

自らの言葉を〝生きた言葉〟にして、人を明るくし、我が心を開拓し、いのちを向上させることが、学ぶことの基本である。」

と結んでいる。

五十年ぶりに再会したこの随想は、私の心に爽やかな風を吹き込んでくれた。

この名文を前にして、私は当時の母校の粗末な、木造の教室に思いをめぐらせた。

そこには、生徒達の心を包みこむような平林盛二先生の瞳が光っていて、〝四月初のある朝、私はいつものように……〟と朗読する級友達の明るい声が響いていた。少年時代の小松幹事の声もその中にあった。

あの頃は、この友人達も私も〝お早ようございます〟と挨拶する純粋な魂の光をもっていたように思う。半世紀の埃で光が薄れて信州の小提灯の挨拶が普通になってしまったようだ。

いつかまた、御挨拶の機会があったら、真心からの本気の、機を得た言葉を使うように心掛けたい。〝生きた言葉〟を取り戻したいと思っている。

取り敢えずは「楽しく、有意義な同窓会になるように御協力をお願いします」と申し上げたい。当り前すぎるかもしれないが、私の本音である。

そして、時の力を借りながら、私の本音が熟成し、醱酵して、私なりの〝生きた言葉〟になるように努めたいと思っている。

大方の諸賢の御指導、御鞭撻を心より願う次第である。

(昭六三・三・一・記)


**株式会社　タカネ**

長野県茅野市宮川4900

ＴＥＬ 茅野(0266)72-6111(代)

**ミクロエンヂニヤリング株式会社**

長野県茅野市金澤5387―1

☎ (0266)72―6551(代)

代表取締役　花岡健雄　(46回)

常務取締役　立木嘉彦　(46回)

常任監査役　小川善弘　(46回)

# 文袋

40回生　牛山之雄

同時代を生きた者の親近感というのは避け難いもののようである。浜稲雄、鮎沢重行両先生の葬儀が二月九日に行なわれた。清陵時代の教師の仲間が次々にこの世を去って行く。仲間といっても、もう八十歳を越えた先輩の人たちであるが、敗戦後新制高校草創期を共に培って来た人たちで、年齢を越えて志を同じうする者の意識は強かったからその感慨は深い。私はといえば、昭和十四年の卒で、ついで二十一年八月から四十一年までほぼ二十年間母校国語科に在職した。私の中に生きている清陵のイメージは、安易な妥協を許さない自由、自治の校風による精神共同体である。そしてそれは具体的な人物像の意識と複合して存在している。戦前でいえば三輪玄蔵先生や河西健児先生、戦後では原田勇、浜稲雄、宮下琢郎、牛山正雄等の諸先生がその支柱のイメージとなって残っている。宮下先生を除く右の先生方の他界と共に同時代の親近の意識は遠い過去のものになろうとしている。宮下画伯は同窓生らの協力により昨年十一月、畢生の画集刊行の大事を成し遂げられた。原田、浜両先生追悼の特集がやがてこの会報の編集子の手にとり上げられるよう待ち望んでいる。

昨年の三月、諏中時代の恩師井上敏夫先生（埼玉大学名誉教授）からお便りがあり、中にこんなことが書かれてあった。「昨夏下諏訪のビューホテルで石井、倉沢、大村などの先生方と国語教育の会に加わり、そのあと久しぶりで霧ケ峯に遊び帰途車を清水ケ丘の清陵高校に回らせてみましたが、五十年の歳月の無惨にも私の悩裏にあるすべての映像をきれいに消し去ってくれました。」

「清陵八十年史」目玉の一つは自治の源流に関する部分にある。一高自治をモデルに同窓の一高生が機会ある毎に母校を訪れて自治を説いた話は有名で、その中の一人今井登志喜先生はリベラルな歴史家として後に東大文学部長となり、長善館の館長もつとめられた。清陵の自治を想う時、いつも今井先生の姿が之に重なり、長善館の自治のことにまで結びついて行く。館長の今井先生は館の行事のあるたびに来館された。先生を囲んでの談合では、いかにもリベラリストらしい先生の奔放ぶりに魅了された。酒の好きな先生を見送って本郷界隈を放浪し、酩酊夢中の先生の手を引きながら御宅を探しあぐねて山手線を往きつ戻りつした懐かしい思い出もある。

「埼玉県の熊谷はクマガイなので、熊谷直実はクマガヤナオザネではないのだが、今は市名駅名すべてクマガヤになってしまった。しかしもう直さないだろう。熊谷ナオサネエていうから。」夢の中にあらわれた酩酊紳士が得意そうに喋っていた。誰かと思って名を探しているうちに、それが道化まがいの今井先生の酔顔に変じていた。この洒落は誰かの本で読んだことがある。その記憶が奇妙に夢の中で酔った先生の像に結びついたものであろう、それにしても、歴史の命数を暗示しているわけでもないこのあっさりしたことばの洒落に気持の上のひっかかりが残るのはなぜであろうか。

「上田秋成の晩年」を書いた後、私は江戸後期の文人松崎慊堂に興味を抱き、ここ両三年「慊堂日暦」を愛読している。彼は熊本の出身で、生家は農業を営んでいた。家が貧しいため近所の寺の小僧に出されたが、僧侶になるのを嫌って十三歳頃寺を出奔して江戸に出た。後、林述斎の塾生となり、学問にうちこんで、同門の佐藤一斎と肩を並べるまでになった。三十二歳で掛川藩の藩校教授に招かれ、四十五歳で致仕してからは目黒の羽沢に石経山房を営んで塾生の教育にあたった。文政十二年三月、彼は大坂城代となった太田侯に供して西征した。任終えて江戸の山荘に帰ったのは十月二十五日であるが、その帰途木曽を経、諏訪湖に舟を浮かべて、優游する姿が十月十九日の日暦に認められる。十八日は雨で下諏訪（樽物屋）に宿をとり十九日舟を湖上に浮かべた。

「晴。まさに舟を買って湖に汎び、諏訪祠に詣でんとすれば天は乍ち西風吹き、湖波は沸白し、舟人は辞して行くこと能わず。（中略）行李を純束（つつみたばねる）し、上諏訪に赴く。湖傍の波なき処より舟を行り、…叔器（門弟）と舟行すれば、水波は漸くやみ、湖山の眺望は頗る佳、城郭は平地より築き起こす。舟を下って温泉寺に入る。諏訪公の墳墓寺にて、寺観は佳ならず。（中略）

皇々者華春に都を出で
十月舟を諏訪湖に汎ぶ
湖水は藍の如く棹を鼓して発すれば
西風に雪浪は菰浦におこる

（皇々者華は、君侯に随行して西征したことを指す。詩経小雅にある語）

困みに、諏訪の家士鵜飼某の弟で慊堂の郷藩肥後の支封細川侯の家士の後を継いだ両角牧太なる人者が居る。細川藩の縁で慊堂を知り、生母鵜飼孺人の八秩の初度（誕生日）を祝うため慊堂に詩を依頼した記事が天保二年十月十二日の日暦にある。慊堂は孺人の為に李白の慈姥竹詩を書し、その後に寿詞と付している。

「野竹は石に攅って生じ
烟を含んで江島に映ず
翠色は波に落ちて深く
虚声は寒を帯びて早し
竜吟は未だかって聴かず
鳳曲は吹いてまさに好かるべし
蒲柳の凋むを学ばず
貞心は常に自ら保つ

（中略）李青蓮の慈姥竹詩を書して以て貽る。孺人は諏訪湖上に居ると聞く。覧揆の辰（誕生日）にこれを高堂に張り、以て湖波万頃の淥きに臨まば、筆墨は陋と雖も、以て一觴を侑むるに足らざらんや。また以て一粲を博すべき乎。」

中国西湖の蘇堤に倣って鷲湖衣ケ崎に堤がのび、城と富士と湖が浮世絵と重なって眺められる空想の風景を私は屡々心に思い描く。それは私の住む湖畔の周辺が車の排気ガスと粉塵とで汚れ、住みにくくなったそれへの反動の所為であろうか。（元飯田高等学校長）

# 支部だより

## 東京支部

62.11.17 東京支部総会

第二一回東京支部総会は、一一月一七日(火)六時より、日本青年館において行われた。出席者は、山田同窓会長、石井副会長、中山学校長ほか多数の来賓を迎え、在京同窓生一八〇余名の参加のもと盛大に開催された。会はまず当番幹事(五一回生、三二名出席)の代表の開会挨拶に続き、小松良樹君の司会で会を進めた。まず、物故会員に対し鎮魂歌の流れる中で黙禱が行われ、厳粛のうちに開会された。続いて永年支部長の重責を果たされた、増沢支部長の退任のご挨拶があり、新支部長に就任された小平祐氏(四二回生)より支部会発展のため最善を尽す旨の力強いお言葉があった。このあと保延事務局長より支部会報告と収支決算報告が行われ承認された。続いてご来賓の山田会長から校舎新築状況のご説明、中山学校長から高校教育活動の現況、小菅募金委員長から募金事業の経過説明等がなされ出席者から大きな拍手があった。この外、八幡栄一氏から小口太郎氏顕彰碑についての説明があり皆様方の絶大なるご協力をお願いしたいとの要請があった。

懇親会に移り、恒例による真澄寄贈の酒樽にて、二〇回生の小川安朗、平出賢、山田大の長老による鏡割後二一回生野沢隆一氏の乾杯が行われ、沢山の料理と飲物で先輩後輩の区別なく、終始なごやかに歓談した。宴たけなわ、石森美代子、渕上良子さんより、もっと若い年代の人達の参加を希望すること、今後女性会員の出席のため努力をしたい旨述べられ喝采を浴びた。予定の時間も過ぎ、会員で校歌を斉唱し、石井副会長の万歳三唱のあと次回担当の五二回生・林尚孝氏より、より一層充実した運営をする決意をこめた閉会の挨拶があり、無事総会を終了した。

(五二回生　増沢　照久・記)

## 北信(長野)支部

県都である長野市、ならびに周辺地区に居住する同窓生の集りを北信支部という。

県都としての特性から、各企業等の中心組織が存在し、それ等に勤務する同窓生が数多い実態となっている。従って異動による離合集散も激しく、総会等の都度、それぞれの職場を通じて現在員の確認をする等、地元の支部とは違った悩みが尽きない。

さてその長野市周辺と諏訪との距離であるが、最近県内で迎えつつある高速交通時代は、漸く中央高速道長野線が岡谷インターより北上し、三月五日松本まで更に秋には豊科までと順調に北上しようとしており、県をあげて一日も早い全面開通が待たれるところである。三十年程前には確か長野まで汽車で諏訪から四時間余りかかり、しかも冠着トンネルで顔をすすけさせた遠隔の地も、現在JRの快速電車で二時間、中央道長野線が全面開通すれば約一時間と一寸、正に夢のよう。故郷が、また母校が、一段と近くなる日が待たれるのである。

最近高校関係者から聞いたことであるが、我が清陵高校改築記念事業として実施している寄付金募集事業

病院　田中クリニック

院　長(外科・麻酔科)　田中　正利(第52回)

副院長(内科・小児科)　田中マキ子

諏訪市元町18番11号　☎(0266)52-2343

が、二億円の大台を突破し、他校同窓会関係者の間で大きな話題となっている由。同窓生各位の母校愛、郷土愛、更には関係者の努力など他校の羨望の的。恐るべし清陵高校同窓会!!

なお最後になりましたが、昨年秋の叙勲により、北信支部長五味連さん（長野県商工部長、長野地方事務所長、長野県住宅部長、住宅供給公社理事長歴任）には、長年にわたる地方自治功労により、勲四等旭日章を受けられました。心からお祝を申し上げます。

（茅野　茂治・記）

# 東海支部

名古屋市の東方　覚王山に通にある教員共済組合の「王山荘」で二月六日午後四時より昭和六三年度の東海支部総会と懇親会を開催した。昨年から毎年二月第一土曜日に総会を開くこと、そして総会の前段で勉強会を開くことを申し合せたその最初の会合であった。

まず東海支部の会員である五一回の名工大教授である「内藤昌」さんに「都市の建築」について一時間お話を受けた。司会は同期生である小林猛さんがあたり、あらためて、名古屋の街づくりの歴史を辿ると共に、伝統と現代を調和する景観行政の重大さをお互に深く認識することができた。この席上で母校の新築にも話題がのぼり、是非かつての遺物（例えば校門）を適当に保存配置してほしいとの全会員の強い要望があったことを申し添える。

さて総会は五二回の矢崎武一さんの開会にはじまり議長に四二回の小山良治があたり、会長の三三回吉江佐太郎さんから挨拶があって、最近幹事会の充実、名簿の整理、会員相互の連絡など東海支部の基礎ができあがってきたことの感謝などが中心であった。そして四四回竹村弘幹事長がご苦労の会計の内容や母校同窓会との連携、名簿・資料関係のご報告があって万場承認された。又昨年の地方選挙で愛知県会議員（名古屋市千種区）で立候補した六七回の今井安栄さんが同窓会各位応援の結果最高点で当選されたことも報告され、熱い拍手があり、ご本人は県会で活躍していることも併せて御礼の挨拶があった。とくに事務所によせられた「千万人といえども

東海支部総会　昭和63.2.6 於王山会館


Sankyo

サンキョウは、
産業社会を支える
企業です。

三協精機は、多くの製品を支える
《核》＝コアパーツ／コアユニットで
産業社会に貢献しております。

技術革新にともなって次々に生み出される製品の中枢では、サンキョウのコアパーツ／コアユニットが陰の主役として活躍しています。サンキョウは、これからもFA・OA・オーディオビジュアル市場など多くの分野に対応するコアパーツ／コアユニットづくりを通して、技術新時代を迎えた産業社会に貢献してまいります。

オプトメカトロニクスの明日に挑む
三協精機
株式会社三協精機製作所

東京本社＝〒105 東京都港区新橋1-17-2 Tel：03-502-3711／FAX：03-502-6228
本社下諏訪工場＝〒393 長野県諏訪郡下諏訪町5329 Tel：0266-27-3111／FAX：0266-28-5833

大阪／名古屋／飯田／駒ヶ根／伊那／諏訪／静岡／アメリカ／西ドイツ／スイス／香港／マレーシア／シンガポール／台湾／韓国

吾往かん」の母校の激励寄書が感激であったことがつけ加えられた。

　このあと参加した四十三名（在籍一五八名）は三二回奥山清副会長の乾杯のあと愉快な自己紹介と尽きない語り合いを行った。参加者は東海銀行、トヨタ自動車はじめ有力な会社、学校、病院など活躍中の方々が多かった。最後に母校校歌熱唱のあと三四回牛山印太郎さんの音頭による母校の発展と全員の壮健を祈る万歳を三唱し、四二回副会長錦見高弘さんから役員再選と閉会のご挨拶で終了した。できれば本年は母校訪問のバス旅行を行うことも検討されている。（小山　良治・記）

# 松本支部

　同窓会本部で作製した「会員名簿」を手懸りに松本支部独自の名簿を完成しました。その名簿を頼りに、従前と異なり心新たに総会通知を発送することのできたことは、名簿専門委員会の皆様のご努力のお陰とここに改めて感謝申しあげる次第でございます。

　アルプス連山を背景に風光明媚な松本城とそのお濠りを含めた公園を残し、最近の近代都市化と観光ブームに押し流されて往時の城下町も、その面影すら失われつゝある現況であります。

　その城近くにある信州会館で恒例の松本支部総会が昨年の十一月十七日の午後六時より行われました。

　毎年総会を実施して思うことは、中信地区は範囲も広く会員数三百余名の多きにわたるが、交通の不便さもさることながら遠距離ということに起因し、参会者も松本周辺の会員に限定されてしまうことです。

　尚、以前は学生も参加されたようですが、最近は殆ど出席者がない状況で、誠に淋しい限りで、先輩、後輩の絆をもっと強くする方策を考えなければと思います。人間関係の豊さとともに、社会のあらゆる方面で、先頭に立たれ、清陵魂を十分に発揮され、ご活躍の皆様方の生き生きした姿に接するのも楽しみの一つでございます。その上で毎年参加される方の顔ぶれが、半数近く異なることも、本会が今後発展していく口火になればという望みを抱かずにはいられません。

松本支部・総会　62.11.17

　本会からは、今村理則教頭先生、小口裕一教務主任先生のご臨席の栄を賜り、藤森幹事の司会により会が進められました。吉江支部長の挨拶の後、お二人の先生方から学校改築の進捗状況と募金の現況報告に合わせて、清陵会館、校舎周辺整備、三沢文庫、完成祝賀総会、小口太郎氏の銅像建立にともなう寄付金等についてお話を聞き、私共一同感銘を受け、思いを遠く清水ガ丘に馳せ、会員ひとりひとりがそれぞれの立場で、懐旧の念とともに、新校舎への期待と母校の発展を祈ったことであろう。

　支部の昨年度の会計報告と慶弔規定等が決議され、懇親会に入りました。

　盛況のうち、時の経つのも忘れ先輩後輩膝を交えながらの懐旧談、ユーモア溢れる自己紹介等あって、最後に思いをこめて校歌を斉唱し、万歳を三唱して閉会になりました。

（副支部長　丸山　数馬・記）


精密旋削と省力化をめざす

エグロの旋盤

精密小型旋盤　精密自動旋盤　精密小型NC旋盤

株式会社　江黒鉄工所

社　　長　江黒泰生（58回）
営業部長　佐藤國夫（62回）
管理部長　江黒照男（65回）
営業部主任　小松真知男（70回）

本社工場：岡谷市御倉町8－14
☎（0266）23－5511（代）
営業所：東京・大阪・名古屋・仙台

本との出会い　豊かな心

ほたる書房　螢ブックセンター

ナリーパーク ほん　☎(72)0670
松電ストアー上スワ店内　☎(52)1778

代表　小口興一（64回）

# 上伊那支部

支部総会は、例年桜の花の咲く頃を目標にしていますが、六十一年度は御柱祭、六十二年度は地方選挙にあたり、五月九日(土)の開催となりました。清陵高校からは新任の中山校長先生、本部からは会長代理として、井上総務委員長と同窓会担当小口先生のお三方をお迎えすることが出来ました。参加者は二十六回（大正九年入学の片倉保一氏）から七十八回生までの同窓生五十一名でありました。

今年度当支部としては、前年に引き続き、「学区制調整区廃止反対」運動を、地域中学校PTAとの連携のもとに実施し、一方清陵高校同窓会々員の皆様方にもその趣旨をご理解していただくことの呼びかけを出来るだけすることにしました。

次に当支部としての名簿の再発行のご承認をいただき、名簿編集委員（六十八回生大森尚人君主査）を選任して事業にあたることに決定しました。編集の基本方針は、(一)会員（伊那地方在住の同窓生）及び、準会員（伊那地方出身者で伊那地方以外に在住する同窓生）を網羅したものにしたい。(二)第一回生より、今回は第八十五回生までの掲載にとどめる。尚(一)については、伊那地方在住会員と、準会員との交流を深めるために役だてたい。発行部数は五百部とし、六十二年度内に配布する。以上が重点目標でありました。

次に役員の改選について、かねてより辞意を表明されておりました、赤羽支部長（三十五回生）黒河内聡夫（六十五回生）増澤寿美江（七十八回生）両委員にかわり、支部長に長田源康（四十六回生副支部長）新委員に土屋隆（六十回生）小沢利長（七十八回生）両氏の選任をいただきました。名支部長として、ご努力していただいた赤羽貞雄氏又支部長に協力し努力された黒河内聡夫氏、増澤寿美江さんに、あらためて感謝の意を表します。

総会後のアトラクションは、趣向を変えて、竜雲会による「仕舞」〝羽衣〟を上演することにしました。この会は、六十八回生・大森尚人君、同・竹入春義君、同・春日昌明君三名の同窓生に賛助出演として、漆戸正夫、福島昭勝両氏のご協力により、伊藤隆一幹事（五十八回生）宅より、拝借した、美事な金屏風の前で、天人が羽衣を着しつつ舞を舞う姿と、謡との一体の中で、参加者全員が、うっとりとした、貴重な一時をもつことが出来ました。

六十三年度清陵高校合格者の中に二十六名（男子十三名女子十三名）の伊那地方出身者がおります。明治二十八年入学の伊那地方出身者第一回生七名より、九十四回生(六十三年入学者)まで総計約千二百余名になろうとしています。この多くの同窓生の積み重ねの中で築きあげてまいりました、よき伝統の〝燈火〟を消すことのないことを願って支部報告とします。

（追記）

名簿作成にあたり、中央印刷様、諏訪データーバンク様に大変ご指導をいただき感謝いたします。

又仕舞「羽衣」出演の黒竜会の方々には益々ご活躍の程、ご祈念申し上げます。

（支部長　長田　源康・記）

# 下諏訪支部

六十二年度下諏訪支部総会は六月十日午後七時より、湖畔の諏訪湖プリンスホテルに於て石井同窓会副会長、母校より中山校長先生、木下先生をお迎えして開催されました。新しく本部から頂いた学年別名簿の中から前もって学年幹事を依嘱申し上げてあったので幹事の方々から出席人員の報告を受けてあり人員の把握が出来たので会の進行上大変助かりました。出席人員も六十名近くなり近年の総会では最多数ではなかったかと思います。

小口剛幹事長司会で鎮魂曲のもと物故会員に黙禱を捧げ、新村良雄副支部長の開会の辞に続き大和支部長挨拶及び経過報告のあと本部石井副会長、中山校長、木下先生から夫々御祝辞や、学務報告、新築工事現況報告を受け六十三年度から全員新校舎に移動出来る予想等をお聞きし、余りにも変って行く母校の未来像に喜び乍らも、あのバンカラな青春を受け入れて呉れた懐しい校舎や恩師等思い出し一抹の淋しさを感じた年代もある場面でした。続いて酒井敏夫会計よりの事業報告、会計報告が承認さ


割烹 仙岳
シャブシャブ
ふぐ料理
天ぷら
代表　小口達夫
小口慶一郎(84回)
小口勝子(87回)
諏訪市湖岸通り5―17―6
TEL 0266(58)3515



諏訪みやげ
不二屋もなか
代表取締役　新村良雄（四九回）
新村　隆（八五回）
下諏訪町四角
（〇二六六）二七―八五〇五

れ、岩波誠司副支部長の閉会の辞で式を閉じ祝宴に入りました。最長老の土橋兵蔵氏(28回)の母校、同窓会、下諏訪支部の前途の発展を祈念しての幹杯で懇親の場を展開しました。

二十八回生から六十八回生に至る四十年の年令差も膝を交えた母校愛の前には、一時風化され文字通り一堂の空気は脈々と流れた若き日の熱い血潮を呼び戻すかの如く、ふれあいの場、交友の場となりました。中山校長先生の御父君政市先生も戦前には母校に於て教鞭をとられた事があるので懐しい話題もあり父子二代にわたる御縁も何かと親しみ易く和の空気に浸って頂けた様でした。校歌合唱となり滝沢潔氏(46回)、小林義典氏(65回)、平山隆勇氏(68回)の音頭での大合唱は赤砂の湖畔に響き渡った事でしょう。尚、万歳に移る前に宮坂芳行氏(42回)から今後の会の運営の為に全会員から会費を徴収したらどうかとの御意見が検討課題として提案され、又河西孝雄氏(44回)から小口太郎顕彰碑に協力要請に続き、伊東才治氏(44回)の琵琶湖周航の唄の飛び入りがあったり会場を去り難い熱っぽいムードで一杯になりましたが、平山正健前支部長の先唱のもと高らかな万歳で又来年の語らいを誓いつつ解散致しました。

(支部長 大和 武美・記)

## 富士見支部

富士見町支部では、毎年二月下旬に支部総会を開いてきましたが、本年は都合が悪く延び延びになっています。早急に総会を開いて親睦を深め、母校の建設の様子、同窓会の様子を、学校側、同窓会からお聞きしたいと思っています。

岡谷で進めている小口太郎氏顕彰の銅像設立のための募金を三役において、同窓生、事業所をまわって行ないました。

支部会員の方の中でお亡くなりになった方が数人あり、役員が支部の旗を霊前にささげてお悔み申し上げました。中にはまだ二十台の方がお亡くなりになり、大変お気の毒でした。お互いに健康には十分気をつけて、働いていきたいものだと強く思いました。

(加々見一郎・記)

## 諏訪支部

昨年十二月五日、十二名の出席を得て、古畑に於て第一回目の役員会を開き次の件を報告し且討議す。㈠諏訪地区法人企業募金の手数料(支部活動助成金として三十二万五百円也)入金す。㈡支部活動の活性化の具体的方策について話し公民館の地区割に準じて夫々支部幹事を増強して組織の確立を計る事とす。㈢支部総会の細部に付いて次回に決定す。二月五日、母校の新築成れる同窓会の拠点である清陵会館会議室で第二回目の役員会を開催した。これは図らずも同会館の使い初めになりました。この日は先ず㈠支部幹事の具体的氏名を挙げ委嘱状をお願いする事にし、㈡総会講師は桑沢和夫さんを通じ早大教授小松雅雄先生(38)にお願いする事とす。

三月四日、於・緑水荘、支部総会開催。司会小口副支部長㈠開会のことば、浜副支部長㈡黙祷(鎮魂曲)㈢挨拶、藤森支部長、拠点の清陵会館が立派に出来たので中味を充実させ地域郷土の為、国家社会の為の拠点作りに御協力を。㈣来賓挨拶㋑石井副会長 ㋺今村教頭先生 ㈤議長選出、小泉副支部長。㈥議事、①清陵高校校舎改築現況報告、丸山事務長。②記念事業並に学校現況報告、小口先生。③募金結果報告、小菅募金委員長。④会計報告、小口副支部長。十二月三十一日現在高、四十七万八千五百六十一円也。⑤監査報告、山岸会計監査より、承認さる。⑥支部運営活動に関する件で支部長提案説明、㋑支部新役員名簿発表承認さる。㋺会員逝去時、弔旗、支部旗、利用の件、㈧校舎改築記念事業完成祝賀記念総会への協力、同窓会定期総会について、河西勇代表。閉会のことば、金子副支部長。つづいて記念講演会演題「日本の課題―国際化の中での豊かさの追求」、小松雅雄先生のわかり易い熱弁に傾聴「歴史は四十年を周期に変革され軍事的膨張主義から経済的膨張政策へ今又大転換期を迎えてアメリカの基礎的部分の強さを認める中で心の優位を計り心の貧しさ不安感を克服し、人間本来の満足度を感覚的精神的分野で制御し心


ひと味ちがいます

タケヤみそ

株式会社 竹屋 長野県諏訪市湖岸通り2丁目3番17号 ☎(0266)52―4000

取締役会長 藤森傳衛 (31回)　取締役社長 藤森郁男 (62回)

の豊かさの中で人類の幸福を見出す事が出来る」先生のお話感銘深く心に残る。先生を囲んで記念撮影し、平林副支部長の司会により懇親会に入り酒間胸襟を開いて懇談・日本一長い校歌を全員で合唱・歓を尽くて解散す。

（藤森　秀雄・記）

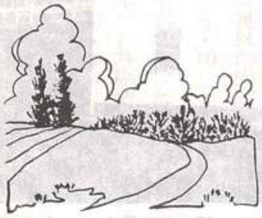
# 茅野支部

五十七年五月に支部総会を開催して以来五年間も総会なしで来て参りましたが懸案の支部名簿の完成と校舎募金の支部関係分が終了しましたので、六十二年十一月二十一日に茅野市内のサンパレスに於いて七十五人が参加して総会を開催いたしました。

伊藤会長挨拶のあと小菅募金委員長（会長代理）中山校長、木下事務局長よりそれぞれご挨拶を戴き、更に野球部後援会事務局長松崎君より日頃の御支援に対する御礼の言葉がありました。矢崎孟伯先生（三十四回）には信玄と茅野市と題して講演をお願いし、会員の皆さんに好評で喜ばれました。

地区名簿の作成につきましては各地区委員のご協力のもと諏訪データーバンク殿より地区毎（九地区）に分類してまとめていただき、総会当日出席者に一部金参百円で配布いたしましたが大変喜んでいただきました。支部総会については本年は十一月頃の開催を計画して居ります。

（茅野支部長　伊藤　治夫・記）



諏訪支部総会　昭和六十三年三月四日　於・緑水荘


MISUZU INDUSTRIES CORPORATION

先進技術を通して、広く社会に貢献したい。

●先進のメカトロニクスを追求する―

株式会社ミスズ工業

〔本社・諏訪工場〕長野県諏訪市四賀3090番地
〒392　TEL(0266)52―6611(代)
FAX(0266)58―8810
〔箕輪工場〕上伊那郡箕輪町中箕輪1536番地
〒399―46　TEL(0265)79―8866(代)
FAX　(0265)79―8877

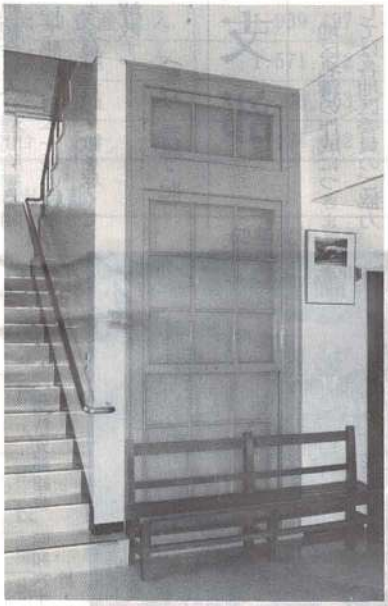
ミスズ工業の信念です。

代表取締役会長　山崎壯一(51回)
代表取締役社長　山崎　晃(64回)
取締役経理部長　小松史明(47回)

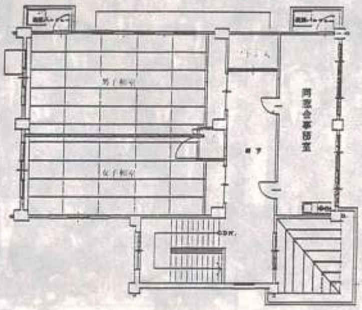
営業品目／腕時計部品・電子部品・精密金型・精密ロボットエンジニアリング

# の紹介

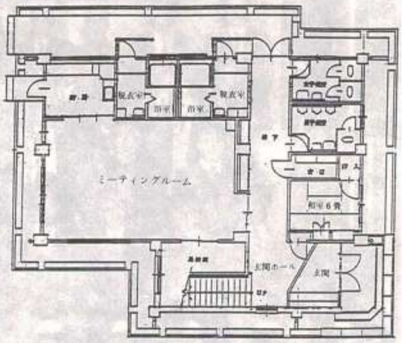
●東校舎隣に完成した鉄筋コンクリート２階建て、延べ329平方メートルの清陵会館の全景



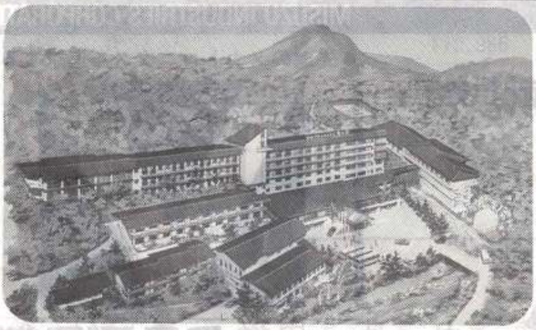
●玄関正面に、昭和30年まで使用していた旧々講堂の窓枠を復元した。




二階平面図




一階平面図

同窓会、慰安旅行、各種御会合に…

信州・蓼科　渓流のリゾート

政府登録国際観光旅館

蓼科グランドホテル　滝の湯

〒391-03　長野県茅野市蓼科温泉 ☎0266(67)2525

NEWS

★63年７月　信玄野天風呂オープン!!

野天風呂（男女別）・サウナ小屋（男女別）など開放的なお風呂の天国

★63年４月　東新館（純和室40室）完成!!

■施設のごあんない

●客室151室・収容800名様

純和室（鹿山荘・白雲荘・青山荘・溪閣荘・東新館）、洋室（ヴィラ山翠）

●庭園大浴場「巌の湯」・「湧泉」、「曲玉風呂」、「竹庭風呂」

●コンベンションホール　「辛夷」（和・洋600名収容）、「パレスサンシャイン」（400名様収容）

●大宴会場「瑞鳳」（300名様収容）●料亭「御堂小路」13室

●会議室「楓」（200名様収容）

●カフェテリア「セント・アンドリュウス」●薔薇絵亭倶楽部「ムーンライト」

二次会処「信濃茶屋」、コーヒーショップ、ゲームコーナー、麻雀室、お土産処「やまびこ」●ガーデンプール

●大駐車場（バス20台収容）　●全館緊急一斉呼出電話完備

●第一級防災設備完備

代表取締役　柳澤英次（45回）

取締役副社長　柳澤洋介（73回）

レストランサン霧ヶ峰　小松敏（49回）

東京店　日本料理　割烹　又本

〒160 新宿区西新宿1-12-7　☎348-4080

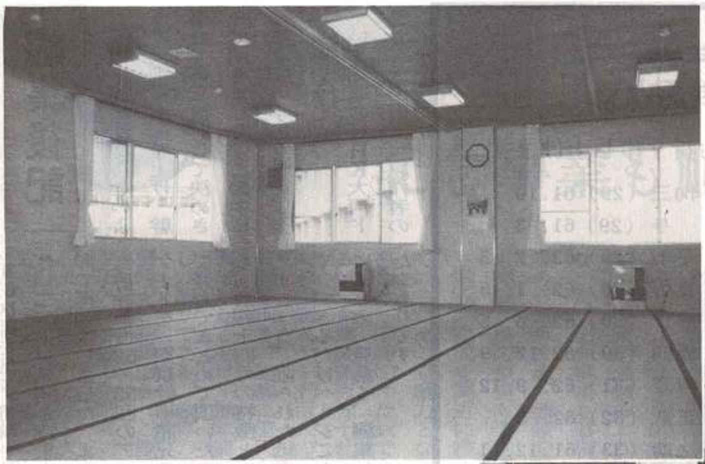
蓼科グランドホテルチェーン

蓼科　政府登録　蓼科グランドホテル 別館　☎(0266)67－2700

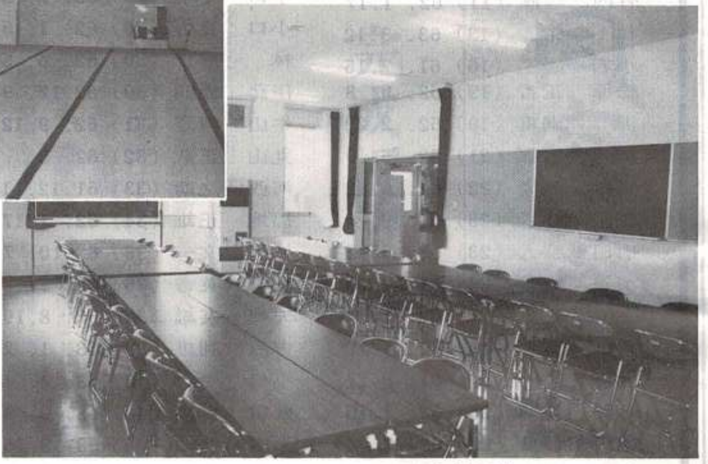
霧ヶ峰　レストラン サン霧ヶ峰　☎(0266)53－6300

●東京営業所☎(03)348-1515　●大阪営業所☎(06)264-5560　●名古屋案内所☎(052)562-0226

# 清陵会館



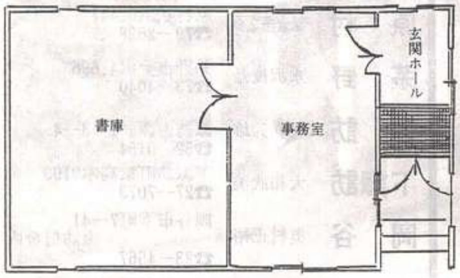
●大広間（合宿所）



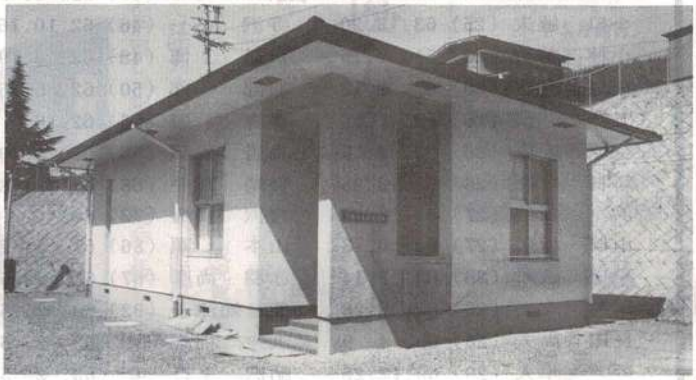
●ミーティングルーム兼食堂（１階）

△　２階は同窓会事務室と50畳の大広間を設けた。大広間は合宿室兼会議室として使用される。

▷　１階は食堂で、ミーティングルームを兼ねる。




三沢文庫平面図



●三沢文庫

脳裏に残る故里の山
心に残る師友の情
心を伝える故里の味

**ひかり味噌株式会社**

長野県下諏訪町4848-1

林　善八郎（58回生）　林　博優（64回生）

昭和61年１月20日大寒！この日に仕込んだ大寒仕込みの限定品天然味噌雅（１kg×６）がまだ若干愛蔵されています。ふるさとの季節の便りに御下命下さい。

御注文は ｛全国最寄の郵便局ふるさと小包 17－020－A
又はひかり味噌㈱　TEL0266－28－8848

# 訃報

昭和62年４月から
昭和63年３月まで

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。

| 氏名 | (回) | 逝去年月日 |
|---|---|---|
| 竹内　潔 | (11) | 62. 1.17 |
| 林　栄一 | (13) | 63. 3.12 |
| 小岩　隆道 | (16) | 61. 7.15 |
| 松原　正香 | (19) | 62. 9. 8 |
| 沢　満重 | (19) | 62. 2.22 |
| 酒井寅次郎 | (21) | 62. 5. 9 |
| 尾沢　金衛 | (22) | 62. 6. 2 |
| 花岡　弥六 | (23) | 61. 9. 5 |
| 山田　勝人 | (23) | 62. 6. 2 |
| 渋谷　徳義 | (23) | 61.12.29 |
| 下條　達雄 | (24) | 62. 1.24 |
| 大堀　高志 | (24) | 62. 5.19 |
| 伊藤　武 | (25) | 61. 9.27 |
| 有賀　益城 | (25) | 62. 1.15 |
| 相川明日良 | (25) | 62. 8. 4 |
| 名取　武光 | (25) | 62.10. 3 |
| 藤森政次郎 | (25) | 62.11. 4 |
| 小口　敏夫 | (25) | 63. 3.20 |
| 小林　善生 | (26) | 61. 7.15 |
| 小口　光男 | (26) | 62. 2.12 |
| 五味　清 | (26) | 62. 7.25 |
| 金原　安雄 | (26) | 63. 2. 5 |
| 新村　修 | (26) | 63. 3.28 |
| 浜　欽哉 | (27) | 62. 7.22 |
| 山田　坂仁 | (27) | 62. 6. 3 |
| 黒田　敏雄 | (28) | 62. 3.14 |
| 両角　文夫 | (28) | 62. 9.28 |
| 長田　尚夫 | (28) | 63. 4. 9 |
| 原　隼人 | (29) | 60.12.26 |
| 伴　恂三 | (29) | 61.10 |
| 細田　与 | (29) | 61. 3 |
| 小口　平七 | (29) | 63. 2. 3 |
| 小口　良吉 | (30) | 62. 1. 5 |
| 林　庠正 | (30) | 62. 6. 5 |
| 伊藤　虎四 | (30) | 62.12. 9 |
| 牛山　晴登 | (31) | 62. 9.12 |
| 丸山　正武 | (32) | 62. 5 |
| 河西清之助 | (33) | 61.12.11 |
| 福地　正雄 | (34) | 62. 1.17 |
| 林　文一 | (35) | 62.10. 7 |
| 細川　英吉 | (36) | 62. 1 |
| 矢嶋　友雄 | (36) | 62. 8.19 |
| 吉沢　利雄 | (39) | 63. 1. 2 |
| 小口　平治 | (40) | 63. 4. 4 |
| 阪田　唯祐 | (43) | 62. 9. 9 |
| 土橋　仁 | (43) | 63. 3.16 |
| 上條　志郎 | (44) | 62. 6.30 |
| 鴨脚　秀男 | (45) | 62. 6. 9 |
| 寺沢　昌一 | (46) | 62.10.16 |
| 伏見　博 | (48) | 62. 8.19 |
| 服部　一郎 | (50) | 62. 5.26 |
| 藤森　肇 | (56) | 62.10 |
| 鳥居　成昭 | (56) | 62. 8.19 |
| 長崎　邦一 | (58) | 63. 3.28 |
| 宮沢　良男 | (73) | 62. 3 |
| 山本　顕 | (86) | 61. 4.12 |
| 赤羽　尚彦 | (87) | 62. 8. 6 |
| 柴　知津子 | (92) | 63. 2. 5 |
| 浜　稲雄 | (旧職) | 63. 2. 6 |
| 鮎沢　重行 | (旧職) | 63. 2. 5 |

## 諏訪清陵高校ＯＢ　諏訪湖一周マラソン　参加のご案内

例年、母校の諸君と共に走っているマラソンも今年で15年目を迎える。参加者は、卒業間もない諸君から33回生まで、親子・夫婦・兄弟と多彩。多くの皆さんが、日頃の健康管理を兼ね楽しんで走っている。多数の同窓生諸氏の参加を希望します。

記

一、日時＝10月29日、(女子八時四〇分・男子九時)
二、コース＝スタート・旧道高国寺前（約23㎞)、ゴール・高島公園
三、参加料＝三千円
四、受付＝本校同窓会館

☆日頃の健康管理をお忘れなく

事務局長　松崎元博(50回)
会計・原　英充(65回)
事務局・牛山　孝(59回)
(Tel (五二) 五九三六)

# 編集後記

依頼原稿が片寄らないよう年代別に候補を上げ、幹事会で再三検討して決めさせて頂きました。この中にも清陵高初入学の女性のご登場も願いました。

いま話題のＮＨＫ大河ドラマ「武田信玄」原作者の“新田次郎を偲ぶ”寄稿を頂き、二ページ見開き特集の形で掲載致しました。また当番幹事役52・55回のアンケートを、東京幹事諸兄のご努力でまとめて頂いたのも、会報十四号の特徴といえましょう。限られた紙面で、できるだけページごとにまとめ、見易く、編集したつもりです。

ご寄稿の各位、広告掲載の皆様に、厚くお礼申し上げ、ご協力頂いた同窓会各支部、事務局の皆様に感謝申し上げます。(細川記)

**編集委員**
細川勢志　平出公仁
小口　明　関　裕安
牛山　真　三井光之
河西　勇　長井和彦
田中正利　小山正男
松沢健二

## 支部連絡場所

| 支部 | 氏名 | 連絡先 |
|---|---|---|
| 原村 | 鎌倉徳之亟 | 原村払沢5,447 ☎79—2628 |
| 茅野 | 永沢俊是 | 茅野市金沢4,696 ☎73—4040 |
| 諏訪 | 藤森秀雄 | 諏訪市諏訪1—3—4 ☎52—0154 |
| 下諏訪 | 大和武美 | 下諏訪町東高木9193 ☎27—7073 |
| 岡谷 | 奥村正裕 | 岡谷市幸町7—41 諏訪信金内 ☎23—4567 |
| 富士見 | 坂本　積 | 富士見町瀬沢 ☎62—2826 |
| 上伊那 | 長田源康 | 上伊那郡辰野町平出上町1607 ☎41—0172 |
| 松本 | 丸山数馬 | 南安曇郡三郷村温7175 ☎0263—77—4374 |
| 長野 | 五味　連 | 長野市上松1—10—3 ☎0262—32—5509 |
| 東海 | 竹村　弘 | 名古屋市千種区田代町蝮ヶ池上2—8 ☎052—761—5434 |
| 東京 | 保延醇一(ヌカノブ) | 杉並区成田東3—32—4 ☎03—312—3386 |

## 同窓会事務局

〒392　諏訪市清水1—10—1
諏訪清陵高校内
諏訪清陵高校同窓会
TEL　0266—58—0356